

四万十市産業振興計画 アクションプラン進捗管理シート

【令和6年度（上半期）】

1	連携分野	・・・・・・・・	1
2	農業分野	・・・・・・・・	7
3	林業分野	・・・・・・・・	12
4	水産業分野	・・・・・・・・	16
5	商工業分野	・・・・・・・・	18
6	観光分野	・・・・・・・・	22

四万十市産業振興計画 アクションプラン進捗管理シート 【令和6年度】

分野		上半期の取り組み状況 〈数量的に見える形で具体的に記載〉	下半期の取り組み予定 〈内容を具体的に記載〉	主な事業主体	定量的な目標 到達点（R6） 実績（直近）	備考 （定性的な目標、課題など）
連携テーマ	施策					
	アクションプラン					
	主な内容					
1 地産地消の促進						
1. 地域産品の利用と販売促進						
【連携AP1】 (1) 地域産品の利用と販売促進						
○地元消費拡大フェアの開催《農業14、林業15、水産12、商工4》 ○地元農畜産物の公共施設での利用促進《農業14、18》 ○有機農産物の流通促進《連携8、農業16》 ○木造住宅建築への支援《林業14》 ○木材流通ネットワークの構築とコーディネート組織の設立《林業13、14》 ○木造化、木質化への情報発信、普及・啓発の強化《林業15》 ○林地残材等の搬出の促進《林業16》 ○木質バイオマスボイラー等の普及促進《林業17》 ○漁協の販売機能の強化《連携8、水産11》		○地域商社「㈱西土佐ふるさと市」を核とした地域創造事業 ・毎月の広報誌により旬な食材等PR ○西土佐地域産業振興推進協議会（4月、5月、6月、7月、8月、9月） ・ナスフェス（8月：道の駅）で米ナスメニューPR ・西土佐地域12店舗で米ナスメニューの普及（ガブッと米ナスキャンペーン8月～9月） ・しまんと西土佐あゆフェス（6月：道の駅）で鮎の食べ方PR ・HPでの情報発信 ○西土佐地域地産地消推進協議会（6月） - 公共施設への供給体制整備と年間計画の策定 ○市産材利用促進事業 - 申請件数：30件（見込） ○「四万十ヒノキの家」での見学・宿泊体験の実施 - 宿泊者：38組、延べ175人 見学者：96人（8月末現在） ○林地残材の搬出促進 - バイオマス証明書発行4件	○地域商社「㈱西土佐ふるさと市」を核とした地域創造事業 - 事業を継続 ○西土佐地域産業振興推進協議会 - 事業を継続 ・西土佐うまいもの商店街（10月） ○西土佐地域地産地消推進協議会（11月、2月） - 事業を継続 ○市産材利用促進事業（事業継続） - 事業を継続 ○「四万十ヒノキの家」での見学・宿泊体験の実施 - 事業を継続 ○林地残材の搬出促進（事業を継続） ○フェア等の開催・参加 10月 高知もくもくエコランド2023森林環境学習フェア - R5年度は未定（R6年度以降、参加を検討する。）	- 四万十市（農林水産課・観光商工課・産業建設課） - 関係団体・組織 - 事業者 - 生産者	◆産業祭来場者数 - H30：20,000人 → R6：40,000人/5年 - H31：3,000人、R2中止 - R3：中止 R4：10,000人 - R5：2,000人 ◆学校給食への市内農産物（野菜類）の供給率 - H30：39.18% → R6：50% - R2：36.9% R3：33.2% - R4：36.7% R5：33.7% ◆市産材利用促進事業の着工件数 - H27-H30平均：27.3戸/年 → R6：30戸/年 - R2：32戸/年 - R3：25戸/年 - R4：31戸/年 - R5：31戸/年	◆地域産品への関心と利用意識が高まっている ◆漁業協同組合の販売機能 - R6：強化
【連携AP2】 (2) 地域産品の販売拠点づくり						
○市内量販店等を拠点とした販路拡大《農業14》 ◎新たな拠点（旧土豫銀行跡地）による情報発信の強化と賑わいの創出《連携8、商工10》 ○拠点施設間での連携《商工10》 ○直販所の拠点機能の強化《農業15》 ◎道の駅「よって西土佐」の機能拡充《連携8、農業15、商工18》 ○拠点ビジネスの推進《商工18》 ○新食肉センターの整備・新食肉センターを核とした地域産業の振興《商工5》		○商店街等活性化事業（モデル事業） - 土佐中村一條公家行列「藤まつり」開催の支援（5月）（実施主体：中村商工会議所） ○商店街等活性化事業 - 商店街振興組合イベント（納涼祭等）開催支援（8月）（実施主体：天神橋・東下町・中村一条通 各商店街振興組合） ○中心市街地にぎわい拠点施設維持管理事業（実施主体：四万十にぎわい商店株式会社） ○中心商店街等活性化事業 ・拠点施設を核とした商店街活性化の協議（毎月） ・商店街広報誌作成 ・電子決済案内ステッカー作成 ・活性化イベント はれのばマルシェ（4月、6月、8月）（実施主体：四万十にぎわい商店株式会社） ○地域おこし協力隊事業 ・商店街リーダー育成、啓発 ○よさこい四万十開催（9月） ○しまんとリバーベキュープロジェクト（農林水産物の活用、商品開発、観光誘客など） ・道の駅よって西土佐、星羅四万十を拠点とした取組の推進 ・JBBQA初級検定、クッキングクラス講習（9月） ○集落活動センター事業（大宮集落活動センターみやの里） 4月～ 軽食・配食サービス、弁当販売（加工販売部会） ・大宮米の外商拡大：アドバイザー導入（5/16）、ふるさと納税（R4.8月～）、都市圏の販売計画 ○直販所の拠点機能強化 ・JAグリーン：販促活動の強化（販促チラシ、イベント開催（2回）） ○新食肉センター整備推進事業 ・関係自治体・団体等で構成する検討会（4月、6月、7月） ・一般社団法人四万十食肉公社設立（7月） ・事業者選定プロポーザル 開始（8月）	○中心市街地にぎわい拠点施設維持管理事業（実施主体：四万十にぎわい商店株式会社） ○中心商店街等活性化事業 ・拠点施設を核とした商店街活性化の協議（毎月） ・商店街広報誌作成 ・活性化イベント はれのばマルシェ（偶数月予定）（実施主体：四万十にぎわい商店株式会社） ・活性化イベント 中心商店街スタンプラリー（10月予定）（実施主体：四万十市商店街振興組合連合会女性部） ○地域おこし協力隊事業 ・商店街リーダー育成、啓発 ○しまんとリバーベキュープロジェクト（農林水産物の活用、商品開発、観光誘客など） ・道の駅よって西土佐、星羅四万十を拠点とした取組の推進 ・JBBQA中級検定（10月） ・BBQジャンボリーしまんと（12月） ○集落活動センター事業（大宮集落活動センターみやの里） - 事業を継続 ・大宮米の外食拡大：商談会・物産展等（都市圏）への出展 ○直販所の拠点機能強化 ・JAグリーン：販促活動の強化等取組を継続 ○新食肉センター整備推進事業 ・関係自治体において負担割合等の協定締結（10月） ・事業者選定プロポーザル二次審査、事業者決定（11月） ・事業者選定に係るCM会議（随時） ・実施設計（1月～）	- 四万十市（企画広報課・農林水産課・観光商工課・産業建設課） - 関係団体・組織 - 事業者 - 生産者 - 四万十市（地域企画課） - 集落活動センター - 一般社団法人四万十食肉公社	◆商店街通行者数（平日） - H27～H30平均：5,338人/日 →R6：6,200人/日 - R2：5,824人/日 - R3：4,743人/日 - R4：4,359人/日 - R5：5,859人/日 ◆農林水産物等直販所販売額 - H29：13億1,200万円 → R6：15億円 - H31：13億4,800万円 - R2：11億9,800万円 - R3：12億1,700万円 - R4：12億5,200万円 ◆道の駅「よって西土佐」入込客数 - H30：18万6,924人 → R6：20万人 - R2：15万6,012人 - R3：16万1,182人 - R4：17万3,517人 - R5：17万4,725人 ◆大宮米販売実績 - R2：4,775,720円 - R3：4,687,835円 - R4：4,397,969円	◆市内の様々な販売拠点において、地域産品の利用、販売が促進されている。 ◆地域内外へ大宮米の認知度向上や販路拡大に向け、イベント出店やふるさと納税等に積極的に取り組む。 ◆世界情勢や急激な円安の影響で、資材価格等が高騰しており、整備事業費の高騰が見込まれる。 ◆事業を前に進めるためには、運営を見通しながら、整備費用の縮減を行う必要がある。 ◆また、光熱費の高騰も続いており、運営シミュレーションの見直しが必要である。

※主な内容：★は新規、◎は拡充、○は継続

四万十市産業振興計画 アクションプラン進捗管理シート 【令和6年度】

分野	連携テーマ	上半期の取り組み状況 〈数量的に見える形で具体的に記載〉	下半期の取り組み予定 〈内容を具体的に記載〉	主な事業主体	定量的な目標 到達点（R6） 実績（直近）	備考 （定性的な目標、課題など）
	施策					
	アクションプラン					
	主な内容					
2	地産外商の推進					
	1. 商品開発と磨き上げ					
	【連携AP3】 (1) 地元農畜産物を使った商品開発					
	○戦略品目のブランド化 《農業16》 ◎40010日プロジェクト 《農業16》 ★新食肉センター整備に伴う養豚場の整備促進 《農業16》 ★四万十牛を核とした西土佐地域の産業振興 《農業16、商工18、観光4》 ○地元農畜産物を使った商品の開発 《農業17》 ○意欲的な生産者への支援 《農業17》	○ぶしゅかん産地化・普及推進事業 ・ぶしゅかん産地化推進業務委託（四万十ぶしゅかん生産者組合） ・地域おこし協力隊（通年：ぶしゅかん産地化業務など） ○ぶしゅかん栽培現地検討会・目慣らし会 通年 栽培管理指導、巡回指導 8月 目慣らし会 ○四万十ぶしゅかん櫛を主体に各種商談での販路開拓・販売促進活動を展開 ・仲卸会社（東京）、製菓会社（東京）等 ○ぶしゅかん生産量の把握 ・市内栽培面積、生産量の把握、青玉の流通 ○栗暮プロジェクト ・西土佐橘地区栗実証農園運営（農業公社へ運営委託） ○露地作付面積日本一マイナスを活用した地域活性化事業 （西土佐地域産業振興推進協議会） ・HPでの情報発信 ○しまんと100年 40010日プロジェクト ・しまんと農法米普及促進 ・具同小学校・利岡小学校でしまんと農法米の学習等 ・酒米吟の夢 しまんと農法米参入 ○道の駅よって西土佐での商品開発推進（櫛西土佐ふるさと市） ○しまんとリバーベキュープロジェクト【再掲】 （農林水産物の活用、商品開発、観光誘客など） ・道の駅よって西土佐、星羅四万十を拠点とした取組の推進 ・クッキングクラス講習（9月） ○養豚場候補地の選定（随時） 候補地調査等の継続	○ぶしゅかん産地化・普及推進事業 ・新規定植（苗代への補助） ・有害鳥獣対策用防護柵（設置費補助） ○ぶしゅかん栽培現地検討会 10月～ ○四万十ぶしゅかん櫛を主体に各種商談での販路開拓・販売促進活動を展開 事業継続 ○ぶしゅかん生産量の把握 ・市内栽培面積、生産量の把握、青玉の流通 ○栗暮プロジェクト ・西土佐橘地区栗実証農園運営（農業公社へ運営委託） ・水田転換推進業（平場新植）0.6ha ・新改植推進（苗木補助）1,100本 ○露地作付面積日本一マイナスを活用した地域活性化事業 ・産地としての競争力強化と販路拡大（JAとの連携） ○しまんと100年 40010日プロジェクト ・しまんと農法米普及促進 10月 東京都での催事出展 東京アンテナショップ試食会開催 四万十清流保全基金寄付金贈呈式 11月 大阪府での催事出展 関西アンテナショップ試食会開催 協同組合フェスタ（高知市）出展 寄付金贈呈式 ○道の駅よって西土佐での商品開発推進（櫛西土佐ふるさと市） バーベキュー関連商品 他 ○しまんとリバーベキュープロジェクト【再掲】 （農林水産物の活用、商品開発、観光誘客など） ・道の駅よって西土佐、星羅四万十を拠点とした取組の推進 ・BBQジャンボリーしまんと（12月） ○養豚場候補地の選定（随時） 候補地調査等の継続	四万十市 （農林水産課・観光商工課・産業建設課） JA高知県 事業者 生産者	◆ぶしゅかん新植面積 H30:10.9ha → R6:25ha R2:13.0ha R3:13.6ha R4:14.9ha R5:15.1ha ◆ぶしゅかん生産量 H30:28.1t → R6:81t R2:26.7t R3:29.1t R4:19.7t R5:40.5t ◆ゆず栽培面積 H30:44.0ha → R6:45ha R2:44.1ha R3:44.1ha R4:44.1ha R5:44.1ha ◆ゆず生産量 H27-H30平均:431.5t/年 → R6:445t R2:541.0t R3:558.0t R4:476.4t R5:639.4t ◆栗栽培面積 H30:48ha → R6:60ha R2:52.2ha R3:55.0ha R4:58.6ha R5:60.2ha ◆栗生産量 H27-H30平均:23.5t/年 → R6:60t R2:18.3t R3:21.0t R4:17.2t R5:18.0t ◆米ナス栽培面積 H30:504a → R6:490a R2:452a R3:434a R4:406a R5:350a ◆米ナス生産量 H30:260t → R6:359t R2:274.1t R3:289.3t R4:232.8t R5:224.2t ◆しまんと農法米栽培面積 H30:10.22ha → R6:20ha R2:17.59ha R3:19.65ha R4:18.53ha R5:8.90ha ◆しまんと農法米生産量 H30:33.2t → R6:80t R2:52.8t R3:74.8t R4:65.6t R5:30.9t ◆一次産品等を活かした新商品の開発（農畜産物加工品以外を含む） H30:117t → R6:307t/5年 R2:117t R3:107t R4:87t R5:137t	◆四万十ブランドの確立や加工商品開発による高付加価値化が図られ、安定した農業経営につながっている
		【連携AP4】 (2) 四万十ヒノキ製品の商品力強化				
	○四万十ヒノキのブランド化の推進 《林業18》 ○木材・木工製品の生産拡大・商品力の強化 《林業12、19》	○「四万十ヒノキの家」での見学・宿泊体験の実施【再掲】 宿泊者:12組、延べ45人 見学者:66人（6月末現在） ○四万十ヒノキブランド化推進協議会 ・四万十ヒノキについてパンフレット等でPR ・80ヒノキ（大口径ヒノキ）付加価値化の検討等 ・四万十ヒノキ原木の育成・施業方法の検討	○「四万十ヒノキの家」での見学・宿泊体験の実施【再掲】 ・事業継続 ○四万十ヒノキブランド化推進協議会 事業を継続 ○協働の森づくり（3企業：体験交流、四万十ヒノキPR） 10～11月 間伐体験：櫛清流メンテナンス、浅野アタカ櫛 日鉄エンジニアリング櫛	四万十市 （農林水産課） 森林組合 四万十ヒノキブランド化推進協議会 製材加工事業者	◆木材・木製品製造品出荷額等 H29:8億496万円 → R6:9億円 R1:8億3,656万円 R2:7億6,951万円 R3:6億2,602万円	◆「四万十ヒノキ」としての知名度が向上し、ヒノキ製品の生産が拡大している

四万十市産業振興計画 アクションプラン進捗管理シート 【令和6年度】

分野		上半期の取り組み状況 〈数量的に見える形で具体的に記載〉	下半期の取り組み予定 〈内容を具体的に記載〉	主な事業主体	定量的な目標 到達点（R6） 実績（直近）	備考 （定性的な目標、課題など）
連携テーマ	施策					
	アクションプラン					
	主な内容					
	【連携AP5】 (3)水産物の高付加価値化					
	○品質管理の向上 《水産9》 ○商品力の強化 《水産9》 ○未利用資源等の掘起しと利活用 《連携10、水産10》 ○新たな商品の企画・開発の支援 《水産10》	○生産工程の均一化と品質管理(四万十川下流漁業協同組合) ・生産工程マニュアルによるアサ、シマアリの生産工程の均一化と品質管理を継続	○生産工程の均一化と品質管理(四万十川下流漁業協同組合) ・生産工程マニュアルによるアサ、シマアリの生産工程の均一化と品質管理を継続	四万十市 (農林水産課・観光商工課・産業建設課) 漁業協同組合 事業者 生産者	◆一次産品等を活かした新商品の開発(農畜産物加工品以外を含む) H30:117件 → R6:307件/5年 R2:117件 R3:107件 R4:87件 R5:137件	◆安定した品質が確保され、販売額の増加につながっている
	【連携AP6】 (4)地域資源を活かした商品開発					
	○事業者や地域グループ等の人材育成《連携8、商工5》 ○事業者、地域等の提案を拾い上げる体制づくり《商工2、16》 ○事業者間のマッチング機会の創出《商工2》 ○テストマーケティング《商工1》 ○商品の品質、ラベル等の磨き上げや表示の適正化《商工1》 ○新たな商品・サービス等の企画・開発支援《商工3》 ○地域ならではのアイデア、資源を活かした商品開発《商工AP16》	○地域おこし協力隊事業【再掲】 ・地域振興関係2名配置(大川筋・後川、目黒川流域) ・中心市街地活性化1名、まちなか景観形成1名配置 ・農業振興2名配置(あぐりっこ、西土佐農業公社) ・ぶしゅかん振興1名配置 ・地域資源活用1名配置(天体観測:ホテル星羅四万十) ・旧校舍利活用1名配置 ・卸売市場の活性化1名配置 ○西土佐地域産業振興推進協議会【再掲】(4、5、6、7、8、9月) ・道の駅ナスフェス(8月)で米ナスメニューPR ・西土佐地域12店舗で米ナスメニューの普及(ガブッと米ナスクンペーン8月～9月) ・しまんと西土佐あゆフェス(6月:道の駅)で鮎の食べ方PR ・HPによる情報発信 ○産業振興推進総合支援事業費補助金 地元食材を活用した加工品の開発・製造施設整備 申請件数:1件(9月末時点) ○物価高騰対策販路拡大支援事業費補助金(商談会出展補助金) 予算:3,200千円(補助上限400千円) 申請件数:2件(9月末時点)	○地域おこし協力隊事業【再掲】 ・地域振興関係2名配置(大川筋・後川、目黒川流域) ・中心市街地活性化1名、まちなか景観形成1名配置 ・農業振興2名配置(あぐりっこ、西土佐農業公社) ・ぶしゅかん振興1名配置 ・地域資源活用1名配置(天体観測:ホテル星羅四万十) ・観光振興1名配置予定 ・地域振興関係1名配置予定(大宮地域) ・地域活性化1名配置予定(西土佐商工会) ・BBQのまちづくり1名配置予定(西土佐ふるさと市) ・林業振興1名配置予定 ○西土佐地域産業振興推進協議会【再掲】 事業を継続 ○特産品等販売促進事業(商談会出展) ・市内特産品販売促進のため、大規模商談会へ出展支援 2月 東京インターナショナルギフトショー(東京都) 2月 グルメショー(東京都) ○産業振興推進総合支援事業費補助金 地元食材を活用した加工品の開発・製造施設整備 ○物価高騰対策販路拡大支援事業費補助金 事業を継続	四万十市 (農林水産課・観光商工課・産業建設課 ・地域企画課) 関係団体・組織 事業者	◆一次産品等を活かした新商品の開発 H30:117件 → R6:307件/5年 R2:117件 R3:107件 R4:87件 R5:137件	◆事業者間や地域で協働した商品開発、販路開拓等の取組みが円滑に推進されている
	【連携AP7】 (5)滞在型の観光商品づくり					
	○観光マーケティングリサーチ《観光1》 ○観光商品としての検証と磨き上げ《観光2》 ○観光商品づくり研修会等の開催《観光3》 ○周遊観光プランの造成・発信及び販売《観光AP5》	○滞在型の観光地づくり(実施主体:四万十市観光協会) ●地域の観光資源、フィールドを活かした滞在用商品づくり ・観光動向調査(4月～) 観光協会案内所:4月～7月3,750人(内外国人1,257人) ・レンタサイクルと観光遊覧船のお得セット(継続) ・修学旅行レンタサイクル受入(2件) ・阪急交通社5連泊商品オプション提案(6件) ・クラブツーリズムレンタサイクル受入(1件) ●広域連携による周遊観光の推進 ・広域観光クラスター整備計画(SDGs)(継続) ○ONSEN・ガストロノミーウォーキング 食、歴史・文化、四万十川の景観を楽しむ体感する新しい旅のスタイルの提案 ・令和7年3月開催に向けた企画・情報発信 ・「ガストロノミー賞」受賞(令和4年度実施) ○四万十川を活用した魅力向上事業補助金(実施主体:四万十市観光振興連絡会議) ◇花をテーマとした観光イベント(四万十川花紀行等)の開催、検証等 ・香山寺・藤 ・トンボ自然公園:花菖蒲、睡蓮 ・大宮:バラ ・数ヶ市:ユリ ・安並水車の里:紫陽花 ・入田ヤナギ林:曼珠沙華 ◇四万十川宣伝写真撮影(アクティビティ)	○滞在型の観光地づくり(実施主体:四万十市観光協会) 事業を継続 ○ONSEN・ガストロノミーウォーキング 事業を継続 ・令和7年3月開催 ウォーキングコースの設定 ○四万十川を活用した魅力向上事業補助金(実施主体:四万十市観光振興連絡会議) ◇花と食をテーマとした観光イベント(四万十川花紀行等)の開催、検証等 ・黒尊渓谷:紅葉 ・入田ヤナギ林:菜の花 ・為末公園:桜 ・入田桜づつみ公園:桜 ◇ライトアップイベント ・かわらっこ、具同地区にて開催予定(12月)	四万十市 (観光商工課・産業建設課) 観光協会 四万十市観光振興連絡協議会 西土佐観光推進協議会 四万十市体験型観光受入研究会 幡多広域観光協議会 予土県境地域連携実行委員会 四万十川流域市町村観光振興連絡会 四国西南地域観光連絡協議会	◆教育旅行受入家庭数 H29:49軒→ R6:65軒 R2:52軒 R3:52軒 R4:13軒 R5:31軒 ◆広域における一般観光客数 H30:118万466人 → R6:64,500人増 R2:1,004,518人 R3:995,699人 R4:1,004,105人 R5:1,110,430人 ◆広域におけるスポーツ客数 H30:17万8,977人 → R6:12,200人増 H31:18万2,587人 R2:126,339人 R3:159,930人 R4:204,204人 R5:226,825人	◆多様な実施主体が連携を強め、満足度、リピート率の高い滞在型の観光プログラムを持続的に展開している ◆広域組織における5つの機能 ①商品の企画・立案 ②商品の造成、販売、取扱 ③広報、情報発信、窓口 ④地域の人材育成 ⑤観光産業化 R6:強化

※主な内容:★は新規、◎は拡充、○は継続

分野		上半期の取り組み状況 〈数量的に見える形で具体的に記載〉	下半期の取り組み予定 〈内容を具体的に記載〉	主な事業主体	定量的な目標 到達点（R6） 実績（直近）	備考 （定性的な目標、課題など）
連携テーマ						
施策						
アクションプラン						
主な内容						
		○しまんとリバーベキュープロジェクト【再掲】 （農林水産物の活用、商品開発、観光誘客など） ・道の駅よって西土佐、星羅四万十を拠点とした取組の推進 ・JBBQA初級検定、クッキングクラス講習（9月） ○四万十市どっぷり旅得キャンペーン事業（物価高騰対策事業） 物価高騰対応地方創生臨時交付金を活用 登録数 宿泊施設：48 体験施設：8 クーポン券取扱店：183 9月～1月末 クーポン券配布（2,000円×市内1万泊） （1,000円×市内5千体験分） ○スポーツツーリズム ・大会招致（ニトリJD.LEAGUE 2024 第9節 四万十ラウンド） 開催日：9月7～8日 参加チーム：トヨタ、日立、日本精工 ・スポーツキャンプ受入 4月：土佐高等学校（弓道） ○大宮バラ園来訪者へのガイド（5月～6月 3組33人） ○四万十・足摺エリア版DMOによる広域観光推進連携事業 （実施主体：幡多広域観光協議会） ・商談会（6回 67社） ・モニターツアーアテンド（一般旅行1回、教育旅行1回） ・団体旅行受入（11団体） ・教育旅行セールス（関西 14社） ・教育旅行受入（5校） ・教育旅行下見（1校） ・教育旅行商談会（1回 9社） ・インバウンド関連 教育旅行学校説明会（台湾 1回49校） ・インバウンド関連 団体旅行商談会（台湾 1回9社） ・観光PRキャラバン（2回） ・ツーリズムEXPOジャパン（東京） ・GSTCトレーニング受講 ・宿泊アンケート調査 ・体験アンケート調査 ○四万十市体験型観光受入研究会 ・田舎暮らし体験受け入れ 5月 常翔啓光学園中学校 32人 6月 開成高等学校 55人 ・令和6年度四万十市体験型観光受入研究会総会開催（5月） ・受入家庭数（令和6年8月）：35軒 ※令和5年度末：31軒 ○四国西南サミット観光部会 広域観光事業の推進	○しまんとリバーベキュープロジェクト【再掲】 （農林水産物の活用、商品開発、観光誘客など） 道の駅よって西土佐、星羅四万十を拠点とした取組の推進 ・JBBQA中級検定（10月） ・BBQジャンボリーしまんと（12月） ○四万十市どっぷり旅得キャンペーン事業（物価高騰対策事業） 物価高騰対応地方創生臨時交付金を活用 事業の継続（1月末終了予定） ○西土佐地域産業振興推進協議会【再掲】 事業を継続 ・西土佐うまいもの商店街（10月） ○スポーツツーリズム ・大会招致 ・会宿、大会誘致活動 ・スポーツキャンプ受入 ○四万十・足摺エリア版DMOによる広域観光推進連携事業 （実施主体：幡多広域観光協議会） ・商談会 ・教育旅行受入 ・ツーリズムEXPOジャパン2024 ・フィッシングショー-OSAKA2024 ○四万十市体験型観光受入研究会 ・研修会の開催 ・田舎暮らし体験受け入れ ○四国西南サミット観光部会 広域観光事業の推進、合同物販又はPR事業等		◆広域におけるはた旅体験 商品利用者数 H30:20,269人 → R6:24,200人 R2:18,036人 R3:38,993人 R4:39,790人 R5:37,119人 ◆広域におけるはた旅体験 商品数 H30:101商品/年 → R6:100商品/年 R2:107商品/年 R3:105商品/年 R4:99商品/年 R5:98商品/年	
	2. 情報発信と販路開拓・拡大					
【連携AP8】 (1) 地域産品の発信と販路開拓・拡大						
	◎産業間連携や広域連携による外商活動等 《農業17、林業15、水産12、 商工4、8、観光7》 ○商談会等販路開拓・拡大の支援 《農業17、水産12、商工4》 ○一元的な情報発信の促進 《連携9、11、商工4、7、 観光7、10》 ○地域の人、もの、コトの発信 《商工17》 ○事業者や地域グループ等の人材育成 《連携6、商工AP5》 ○有機農産物の流通促進 《連携1、農業18》	○地産外商活動 4月～ 松山大街道にて外商活動（西土佐ふるさと市） 6～7月 天然鮎の高付加価値化 活鮎の豊洲市場出荷（あゆ市場） 4～11月 奥伊予街道7駅物語 （スタンプラリー、愛媛県道の駅との連携） 9月 北の恵み 食べマルシェ（旭川）	○地産外商活動 ～3月 松山大街道にて外商活動（西土佐ふるさと市） 10月 四万十地域連携企画（豊浜SAでの物販） 10月 全国交流物産展in新橋 ～11月 奥伊予街道7駅物語 10月 土佐井グランプリ 11月 フェスティバル土佐ふるさとまつり（西土佐鮎市場ほか） 11月 枚方市友好都市物産展 12月 高知大丸冬の味覚祭 ○幡多広域地産外商推進協議会 ・物産PR等継続事業、都市圏等の物産PR等継続事業の実施 11月 しんくみビジネスマッチング（商談会出展） 1月 関西アンテナショップとさとさでのフェア開催 ○特産品等販売促進事業（商談会出展）【再掲】 ・市内特産品販売促進のため、大規模商談会へ出展支援 2月 東京インターナショナルギフトショー（東京都） 2月 グルメショー（東京都）	四万十市 （農林水産課・観光商 工課・産業建設課） 関係団体・組織 事業者 生産者	◆商談会等での成約率 H30:20.8% → R6:25% R2:46.3% R3:35.5% R4:18.5% R5:23.7%	◆産業間が連携し、多様な外商活動が 展開されている ◆多様な広報・プロモーション活動が 展開され、地域産品の販売促進につな がっている

四万十市産業振興計画 アクションプラン進捗管理シート 【令和6年度】

分野		上半期の取り組み状況 〈数量的に見える形で具体的に記載〉	下半期の取り組み予定 〈内容を具体的に記載〉	主な事業主体	定量的な目標 到達点（R6） 実績（直近）	備考 （定性的な目標、課題など）
連携テーマ						
施策						
アクションプラン						
主な内容						
	○四万十ヒノキ製品の販売力の強化 《林業20》 ○漁協の販売機能の強化 《連携1、水産AP11》 ○水産物・水産加工品のブランディングの構築と発信 《水産12》 ◎新たな拠点（旧土豫銀行跡地）による情報発信の強化と賑わいの創出 《連携2、商工10》 ◎道の駅「よって西土佐」の機能拡充 《連携2、農業15、商工18》	○地域おこし協力隊事業 卸売市場の活性化（市場ブランドの確立） ○四万十鮎ブランド化 ・四万十ーデカイ鮎釣った人が優勝！グランプリ開催 （6/1～9/30） （四万十市西土佐商工会） ・県「あゆ王国高知振興ビジョン」との連携 ○物価高騰対策販路拡大支援事業費補助金（商談会出展補助金）【再掲】 予算：3,200千円（補助上限400千円） ○中心市街地にぎわい拠点施設を核とした商店街等活性化事業【再掲】 ・毎月1回 拠点施設を核とした商店街活性化の協議 ・商店街広報作成 ・中心市街地にぎわい拠点施設維持管理事業費補助金（1,949千円） ・活性化イベント 4月・8月 はれのばマルシェ（四万十にぎわい商店（株）） 9月 よさこい四万十2022（よさこい四万十実行委員会）	○地域おこし協力隊事業 ・事業を継続 ・地域活性化1名配置予定（西土佐商工会） ○四万十鮎ブランド化 ・県「あゆ王国高知振興ビジョン」との連携 ○物価高騰対策販路拡大支援事業費補助金【再掲】 事業を継続			
【連携AP9】 (2)観光商品のセールス・情報発信						
	○広域連携によるキャンペーンの展開 《観光5》 ○営業力のある人材、組織の育成 《観光6》 ○旅行会社への営業活動の促進 《観光6》 ○旅行商品商談会等への出席 《観光6》 ○海外への営業活動の促進 《観光6》 ○多様な媒体を活用した広報活動の強化 《観光7》 ○一元的な情報発信の促進 《連携8、11、商工4、7、 観光7、10》 ○ターゲットに合わせたプロモーションの展開 《観光7》 ◎産業間連携や広域連携による誘客 （PR）活動 《連携11、観光7》	○四国西南地域観光連絡協議会 広域観光事業の推進 ○四万十川総合保全機構（観光部会） 四万十川流域市町村観光振興連絡会が統合 ○四万十・足摺エリア版DMOによる広域観光推進連携事業【再掲】 （実施主体：幡多広域観光協議会） ・商談会（6回 67社） ・モニターツアーアテンド（一般旅行1回、教育旅行1回） ・団体旅行受入（11団体） ・教育旅行セールス（関西 14社） ・教育旅行受入（5校） ・教育旅行下見（1校） ・教育旅行商談会（1回 9社） ・インバウンド関連 教育旅行学校説明会（台湾 1回49校） ・インバウンド関連 団体旅行商談会（台湾 1回9社） ・観光PRキャラバン（2回） ・ツーリズムEXPOジャパン（東京） ・GSTCトレーニング受講 ・宿泊アンケート調査 ・体験アンケート調査 ○観光商品の外商の推進（実施主体：四万十市観光協会） 観光商品のセールス及び情報発信の強化 ・商談会への参加（4月東京、5月広島、5月岡山） ・デジタルパンフレットの作成（継続） ・SNS（フェイスブック、インスタグラム）の掲載内容充実（継続） ○観光大使設置事業（現在26名） ・本田雅人氏（サクセス奏者）への新規委嘱 ・観光大使イベント情報等の情報発信依頼、市特産品を贈呈しPRを強化 ・間六口氏のイベント出演において、四万十市の情報を発信 ○予土県境地域連携実行委員会 予土県境サイクルツーリズムの推進 ・サイクリングの魅力情報発信、サイクルトレイン事業 ・予土まちサイクルデジタルスタンプラリー（7月～） 予土県境地域ごとに、自然・観光・穴場スポットの設定 ★県観光キャンペーン「どっぶり高知旅」との連携 ・オススメどっぶり高知旅コンテストへ応募（7素材） （四万十市観光協会の「レンタサイクルを活用した自由な四万十川 四万十市内散策」コンテンツが幡多地域エリアで1位） ・商品造成エリアへ応募（田出ノ川地区） エリア選定を受け、今後関連団体と商品開発を行う	○四国西南地域観光連絡協議会 パンフレット「四国西南の旅」作成、配布 ○四万十川総合保全機構（観光部会） 流域市町村周遊観光パンフレット作成 ○四万十・足摺エリア版DMOによる広域観光推進連携事業【再掲】 （実施主体：幡多広域観光協議会） ・商談会 ・教育旅行受入 ・ツーリズムEXPOジャパン2024 ・フィッシングショーOSAKA2024 ○観光商品の外商の推進（実施主体：四万十市観光協会） 事業を継続 ・商談会への参加 ・デジタルパンフレットの作成（継続） ・SNS（フェイスブック、インスタグラム）の掲載内容充実（継続） ○西土佐地域産業振興推進協議会【再掲】 ・食や観光資源を活用した地域活性化 ・地域を巡るツアー「四万十西土佐半径3kmの旅」の磨き上げ ○観光大使設置事業 事業を継続 ○予土県境地域連携実行委員会 予土県境サイクルツーリズムの推進 ・サイクリングの魅力情報発信、サイクルトレイン事業 ・予土まちサイクルデジタルスタンプラリー（～12月下旬） 予土県境地域ごとに、自然・観光・穴場スポットの設定 ★県観光キャンペーン「どっぶり高知旅」との連携 事業を継続	四万十市 （観光商工課・産業建設課） 観光協会 幡多広域観光協議会	◆観光協会ホームページアクセス数 H30:189,053件 → R6:200,000件 R2:162,843件 R3:265,941件 R4:285,089件 R5:233,641件	◆観光人材・組織のスキル（商品企画、営業力等）が向上し、観光誘客が増加している。 ◆多様な広報・プロモーション活動が展開され、観光誘客につながっている

分野		上半期の取り組み状況 〈数量的に見える形で具体的に記載〉	下半期の取り組み予定 〈内容を具体的に記載〉	主な事業主体	定量的な目標 到達点（R6） 実績（直近）	備考 （定性的な目標、課題など）
連携テーマ	施策					
	アクションプラン					
	主な内容					
		・周遊促進・滞在延長支援事業費を活用 （実施主体：四万十市観光協会） 事業名：四万十川川バス周遊促進事業（2,010千円） ○観光ガイドミーティング（2回） ・LOILLOIしまんとミーティング（4月、6月）	○観光ガイドミーティング ・LOILLOIしまんとミーティング			
3. 四万十の“食”文化の磨き上げと発信						
【連携AP10】						
(1) “食”文化の磨き上げ						
○四万十の食文化の掘起し、磨き上げ 《商工6》 ○塩たたきのブランド化の推進 《商工6》 ○魚食文化の磨き上げ 《水産13》 ○未利用資源等の掘起しと利活用 《連携5、水産10》		○塩たたき提供店舗（39店舗）による塩たたきの普及 ○しまんとリバーベキュープロジェクト【再掲】 （農林水産物の活用、商品開発、観光誘客など） ・道の駅よって西土佐、星羅四万十を拠点とした取組の推進 ・JBBQA初級検定、クッキングクラス講習（9月）	○しまんとリバーベキュープロジェクト【再掲】 （農林水産物の活用、商品開発、観光誘客など） 道の駅よって西土佐、星羅四万十を拠点とした取組の推進 ・JBBQA中級検定（10月） ・BBQジャンボリーしまんと（12月）	四万十市 （農林水産課・観光商 工課・産業建設課） 関係団体・組織 事業者 生産者		◆四万十の“食”として市内外の知名度が向上し、販売や観光誘客などの拡大につながっている
【連携AP11】						
(2) “食”の発信						
○食の魅力を活かした観光地づくり 《観光4》 ★自然・体験型の観光と歴史や文化、食とが一体となった観光プログラムの 造成・発信及び販売 《観光4》 ○食の発信イベント・企画の磨き上げ 及び拡充 《水産14、商工7》 ○一元的な情報発信の促進 《連携8、9、商工4、7、 観光7、10》 ◎産業間連携や広域連携による誘客 （PR）活動 《連携9、観光7》 ★県外事業者等の拠点を活用した外商 活動 《商工8》		○食の発信・普及イベント等【再掲】 4～11月 奥伊予街道七駅物語（ｽﾀﾝﾌﾟﾗｲﾝ、愛媛県道の駅と連携） 6月 しまんと西土佐あゆフェス（道の駅） 8月 ナスフェス（道の駅） ○予土県境地域連携実行委員会【再掲】 予土県境サイクルツーリズムの推進 ・サイクリングの魅力情報発信、サイクルトレイン事業 ・予土まちサイクルデジタルスタンプラリー（7月～） 予土県境地域ごとに、自然・観光・穴場スポットの設定 ○四万十・足摺エリア版DMOによる広域観光推進連携事業【再掲】 （実施主体：幡多広域観光協議会） ・商談会（6回 67社） ・モニターツアーアテンド（一般旅行1回、教育旅行1回） ・団体旅行受入（11団体） ・教育旅行セールス（関西 14社） ・教育旅行受入（5校） ・教育旅行下見（1校） ・教育旅行商談会（1回 9社） ・インバウンド関連 教育旅行学校説明会（台湾 1回49校） ・インバウンド関連 団体旅行商談会（台湾 1回9社） ・観光PRキャラバン（2回） ・ツーリズムEXPOジャパン（東京） ・GSTCトレーニング受講 ・宿泊アンケート調査 ・体験アンケート調査 ○しまんとリバーベキュープロジェクト【再掲】 （農林水産物の活用、商品開発、観光誘客など） ・道の駅よって西土佐、星羅四万十を拠点とした取組の推進 ・JBBQA初級検定、クッキングクラス講習（9月）	○食の発信・普及イベント等【再掲】 10月 西土佐うまいもの商店街 3月 四万十川花紀行「菜の花」まつり 3月 ONS EN・ガストロノミーツーリズム ○予土県境地域連携実行委員会【再掲】 予土県境サイクルツーリズムの推進 ・サイクリングの魅力情報発信、サイクルトレイン事業 ・予土まちサイクルデジタルスタンプラリー（～12月下旬） 予土県境地域ごとに、自然・観光・穴場スポットの設定 ○四万十・足摺エリア版DMOによる広域観光推進連携事業【再掲】 （実施主体：幡多広域観光協議会） ・商談会 ・教育旅行受入 ・ツーリズムEXPOジャパン2024 ・フィッシングショーOSAKA2024 ○しまんとリバーベキュープロジェクト【再掲】 （農林水産物の活用、商品開発、観光誘客など） 道の駅よって西土佐、星羅四万十を拠点とした取組の推進 ・JBBQA中級検定（10月） ・BBQジャンボリーしまんと（12月）	四万十市 （農林水産課・観光商 工課・産業建設課） 関係団体・組織 事業者 生産者	◆県内平均消費額（四万十 川） H29:28,869円 → R6:33,000円 R2:26,849円 R3:29,495円 R4:32,356円 R5:32,356円 ◆商店街通行者数（平日） H27～H30平均:5,338人/日 →R6:6,200人/日 R2:5,824人/日 R3:4,743人/日 R4:4,359人/日 R5:5,859人/日 ◆産業祭来場者数 H30:20,000人 → R6:40,000人/5年 H31:3,000人 R2:中止 R3:中止 R4:10,000人 R5:2,000人	◆四万十の“食”として市内外の知名度が向上し、観光誘客や市街地への人の回遊につながっている

分野		上半期の取り組み状況 〈数量的に見える形で具体的に記載〉	下半期の取り組み予定 〈内容を具体的に記載〉	主な事業主体	定量的な目標 到達点（R6） 実績（直近）	備考 （定性的な目標、課題など）
戦略の柱						
施策						
アクションプラン 主な内容						
農業分野						
1 産地としての維持・強化						
1. 戦略品目の生産拡大						
【農業AP1】 (1)ぶしゅかんの産地づくり						
◎生産量の拡大と産地化の推進	○ぶしゅかん産地化・普及推進事業【再掲】 ・ぶしゅかん産地化推進業務委託（四万十ぶしゅかん生産者組合） ・地域おこし協力隊（通年：ぶしゅかん産地化業務など） ○ぶしゅかん栽培現地検討会・目慣らし会【再掲】 通年 栽培管理指導、巡回指導 8月 目慣らし会 ○四万十ぶしゅかん㈱を主体に各種商談での販路開拓・販売促進活動を展開 ・仲卸会社（東京）、製菓会社（東京）等 ○ぶしゅかん生産量の把握 ・市内栽培面積、生産量の把握、青玉の流通	○ぶしゅかん産地化・普及推進事業【再掲】 ・新規定植（苗代への補助） ・有害鳥獣対策用防護柵（設置費補助） ○ぶしゅかん栽培現地検討会【再掲】 10月～ ○四万十ぶしゅかん㈱を主体に各種商談での販路開拓・販売促進活動を展開 事業継続 ○ぶしゅかん生産量の把握 ・市内栽培面積、生産量の把握、青玉の流通	四万十市 （農林水産課・観光商工課） 生産者 事業者	◆ぶしゅかん新植面積 H30:10.9ha → R6:25ha R2:13.0ha R3:13.6ha R4:14.9ha R5:15.1ha ◆ぶしゅかん生産量 H30:28.1t → R6:81t R2:26.7t R3:29.1t R4:19.7t R5:40.5t		
【農業AP2】 (2)ゆずの産地化促進						
○生産性の向上 ○隔年結果の低減や青果率、秀品率の向上	○ゆずの生産性の向上	○ゆずの生産性の向上 ・冬至用・平箱ゆず出荷目慣らし会（10月）、剪定講習会（3月） ・ゆず現地検討会	四万十市 （農林水産課・産業建設課） JA高知県 生産者、事業者	◆ゆず栽培面積 H30:44.0ha → R6:45ha R2:44.1ha R3:44.1ha R4:44.1ha R5:44.1ha ◆ゆず生産量 H27-H30平均431.5t/年 →R6:445t R2:541.0t R3:558.0t R4:476.4t R5:639.4t	◆ゆず生産量 H27-H30平均431.5t/年 →R6:445t R2:541.0t R3:558.0t R4:476.4t R5:639.4t	
【農業AP3】 (3)栗の産地再生						
◎栗園の再生	○栗暮プロジェクト【再掲】 ・西土佐橋地区栗実証農園運営 農業公社へ運営委託 ○栗の集出荷（西土佐地域） （実施主体：JA高知県、しまんと美野里、西土佐ふるさと市） ・JA高知県：栗を含め地域振興作物の集出荷 ・しまんと美野里：栗の集出荷及び加工販売 ・西土佐ふるさと市：栗を含め地元産品の販売	○栗暮プロジェクト【再掲】 ・西土佐橋地区栗実証農園運営 農業公社へ運営委託 ・水田転換推進業（平場新植）0.6ha ・新改植推進（苗木補助）1,100本 ○栗の集出荷（西土佐地域） 事業を継続	四万十市 （産業建設課） JA高知県 生産者 事業者	◆栗栽培面積 H30:48ha → R6:60ha R2:52.2ha R3:55.0ha R4:58.6ha R5:60.2ha ◆栗生産量 H27-H30 平均23.5t/年 → R6:60t R2:18.3t R3:21.0t R4:17.2t R5:18.0t		
【農業AP4】 (4)米ナスの振興						
★生産量の拡大と産地化促進 ★地元での認知度向上及びブランド力の向上	○西土佐地域産業振興推進協議会（アソいまちサミットナス事業）【再掲】 ・PRイベント「ナスフェス」開催 ・「ガブッと米ナス」キャンペーン開催（8/1～9/30） 西土佐地域12店舗参加、期間中、米ナス料理を提供 ○露地作付面積日本一米ナスを活用した地域活性化事業【再掲】 （西土佐地域産業振興推進協議会） ・HPでの情報発信 ○地域への定着 ・学校との連携（西土佐小学校・中学校、西土佐分校で栽培体験実施） ・PRイベント「ナスフェス」への学生参加（高校生） ・市内小中学校給食における米ナスメニュー提供（6月、7月、9月）	○露地作付面積日本一米ナスを活用した地域活性化事業【再掲】 （西土佐地域産業振興推進協議会）事業を継続 ・産地としての競争力強化と販路拡大（JAとの連携） ○地域への定着 ・学校との連携（西土佐小学校・中学校、西土佐分校で栽培指導）継続	四万十市 （農林水産課・産業建設課） JA高知県 生産者 事業者	◆米ナス栽培面積 H30:504a → R6:490a R2:452a R3:434a R4:406a R5:350a ◆米ナス生産量 H30:260t → R6:359t R2:274.1t R3:289.3t R4:232.8t R5:224.2t		
【農業AP5】 (5)有望品目の産地強化						
○地域に根づいた有望品目による産地の育成・強化 ○新規品目導入の支援	○レンタルハウス整備事業（実施主体：高知県農業協同組合） ・新規就農区分1件（品目：ピーマン） ○園芸ハウス整備事業 ・ハウス修繕1件（品目：ピーマン） ○燃料タンク対策事業 （実施主体：高知県農業協同組合、生産者1戸） 流出防止付タンク及び防油堤の整備：2基分	○レンタルハウス整備事業（実施主体：高知県農業協同組合） ・新規就農区分1件（品目：ピーマン） ○園芸ハウス整備事業 ・ハウス修繕8件（品目：イチゴ、ショウガ、トマト、大根） ○燃料タンク対策事業 事業を継続	四万十市 （農林水産課・産業建設課） JA高知県 四万十農園あぐりっこ 西土佐農業公社 集落営農組織		◆有望品目の安定生産や新規品目が地域内で定着し、安定した農業経営につながっている	

四万十市産業振興計画 アクションプラン進捗管理シート 【令和6年度】

分野		上半期の取り組み状況 〈数量的に見える形で具体的に記載〉	下半期の取り組み予定 〈内容を具体的に記載〉	主な事業主体	定量的な目標 到達点（R6） 実績（直近）	備考 （定性的な目標、課題など）
戦略の柱	施策					
	アクションプラン					
	主な内容					
農業分野						
	★新規品目「わさび」の栽培実用化に向けた取組み ○野菜価格安定制度による経営支援	○新規作物導入試作支援事業（西土佐農業公社等） 栽培実証及び販売促進等を支援（米ナス盛夏期の高温対策試験） ○わさび実証実験事業（実施主体：四万十市わさび栽培協議会） ・わさびの2作目の栽培管理 ○野菜価格安定事業（中村地域：四万十市中村野菜価格安定基金協会） 5月に給付（前年度分） 対象品目：オクラ、シシトウ、ナバナ	○新規作物導入試作支援事業（西土佐農業公社等） 栽培実証及び販売促進等を支援 ○わさび実証実験事業（実施主体：四万十市わさび栽培協議会） ・わさびの2作目の栽培管理、総括 ○園芸作物価格安定事業（西土佐地域：園芸作物価格安定基金評議会） 3月 評議会を開催（4月以降補給金支払） 対象品目：シシトウ、ナバナ、インゲン、米ナス、小ナス オクラ、茎ブロッコリー、イチゴ	生産者		
2. 生産性の高い栽培技術の導入						
【農業：AP6】 (1) 学び教えあえる場づくり						
	○学び教えあう場づくり	○農業基礎講座 ・農業基礎講座（7月～9月）：7回開催（年間10回） （栽培技術、就農計画、制度資金、農業適正使用、経営管理等） ○JA選果場における目慣らし会の実施（随時） ○地域内農家による巡回指導（随時）	○農業基礎講座 ・農業基礎講座（10月～11月）：3回開催（年間10回） （栽培技術、就農計画、制度資金、農業適正使用、経営管理等） ○JA選果場における目慣らし会の実施（随時） ○地域内農家による巡回指導（随時）	四万十市 （農林水産課・産業建設課） JA高知県 四万十農園あぐりっこ 西土佐農業公社 生産者		◆講座等を通じて、営農に不可欠な栽培技術や経営感覚が習得され、持続的な農業経営が実践されている ◆新規就農者等と篤農家との交流が促進され、情報収集や就農後の相談体制収集や就農後の相談体制等ネットワークが構築されている
【農業：AP7】 (2) 環境保全型農業の推進						
	○環境保全型農業の普及・啓発	○有機農業等総合支援事業 ・堆肥等有機物利用促進 上半期（4月～9月）中村実績：1件 ○環境保全型農業直接支払交付金事業 ・3団体 取組面積：3,764a （有機農業3,663a（中村）、カパークropp101a（西土佐）） ○みどりの食糧システム戦略推進事業（旧：環境保全型農業推進事業） ・JA高知県西土佐イワナ部会4戸、66a	○有機農業等総合支援事業 事業を継続 ○環境保全型農業直接支払交付金事業 事業を継続 ○みどりの食糧システム戦略推進事業（旧：環境保全型農業推進事業） 事業を継続	四万十市 （農林水産課・産業建設課） 生産者	◆環境保全型農業直接支払事業参加経営面積 H30:21.4ha → R6:25ha R2:30.7ha R3:32.6ha R4:35.4ha R5:43.5ha ◆環境保全型農業推進事業実施経営体数 H30:21戸 → R6:20戸を維持 R2:0戸 R3:0戸 R4:0戸 R5:0戸	◆四万十川のブランドイメージにマッチした環境保全型農業が推進され、消費者からの支持が集まり、農産物の高付加価値が高まっている
【農業：AP8】 (3) 先端技術を活用した園芸施設や園芸システム等の普及推進						
	◎次世代型こうち新施設園芸システムの普及推進	○次世代園芸ハウス事業化に向けた協議 ・事業者、高知県、農業公社など関係機関にて随時協議 ○Next次世代型施設園芸の導入 97名（データ収集のみ57名、SAWACHI登録40名）	○次世代園芸ハウス事業化に向けた協議 ・事業者、高知県、農業公社など関係機関にて随時協議	四万十市 （農林水産課・産業建設課） 生産者	◆次世代施設園芸等への誘致企業数 H30:0社 → R6:1社 R2:0社 R3:0社 R4:0社 R5:0社	
3. 集落営農の推進						
【農業：AP9】 (1) 集落営農の組織化、法人化の支援						
	○組織化に向けた取組みの推進 ★組織の広域連携化の推進 ○フォローアップ体制の充実・強化	○既存組織へのフォローアップ ・組織間連携 中村地域営農協議会（R5.10.25設立）の役員会を開催（月1回） 代表：（農）利岡FARM 事務局：（農）田野川甲営農組合 構成組織：（農）入田村、（農）いーすとみやま、（農）わらびおか、 （農）三里営農組合、楠島あぐり集落営農組合 米の共同出荷の実施、ドローン導入（R7予定）に向けた協議	○既存組織へのフォローアップ ・組織間連携（中村地域営農協議会役員会月1回開催） ・集落営農組織連絡会開催（西土佐地域 11月、1月） ・組織別座談会 ○地域営農支援事業（ソフト事業：既存組織支援） ・先進地視察（11月下旬予定：視察先検討中）	四万十市 （農林水産課・産業建設課） 集落営農組織	◆集落営農組織数 H30:31組織 →R6:31組織を維持 R3:31組織 R4:31組織 R5:31組織 ◆農業経営を行う法人数 H30:4法人→R6:8法人 R3:8法人 R4:8法人 R5:8法人	

分野		上半期の取り組み状況 〈数量的に見える形で具体的に記載〉	下半期の取り組み予定 〈内容を具体的に記載〉	主な事業主体	定量的な目標 到達点（R6） 実績（直近）	備考 （定性的な目標、課題など）
戦略の柱	施策					
	アクションプラン					
	主な内容					
農業分野						
	【農業：AP10】 (2) こうち型集落営農の実践					
	○収益性の高い品目を導入した組織の育成・支援	○地域営農支援事業（ソフト事業） ・農事組合法人入田村：雇用確保支援 300千円（農の雇用事業） ○地域営農支援事業（ハード事業） 営農組織に対する農業用機械、施設整備等の助成 ・（株）大宮産業：乾燥調製設備一式（21,786千円） ※集落営農活性化プロジェクトの上乗せ分（西土佐西部営農組合）（427千円） ○集落営農活性化プロジェクト促進事業 営農組織に対する農業用機械、施設整備等の助成 ・西土佐西部営農組合：収摺機一式（712千円）	○地域営農支援事業（ソフト事業） 継続 ○地域営農支援事業（ハード事業） 継続 ○集落営農活性化プロジェクト促進事業 継続	四万十市 （農林水産課・産業建設課） 集落営農組織 JA高知県 生産者		◆収益性の高い品目を導入する組織が育成されている
	4. 生産・出荷支援システムの構築					
	【農業：AP11】 (1) 農作業支援体制の充実					
	○農作業支援体制の整備	○農作業支援隊による農業労働力確保事業（高知県農業協同組合） ・農作業支援（上半期：8月末現在） 堆肥散布：281t、作業支援：0件、WCS収穫、梱包：0a ○農作業支援体制の整備 ・無料職業紹介所 （中村地域）求職者：10件、求人：14件、マッチング：延べ10件 （西土佐地域）求職者：0件、求人：1件、マッチング：延べ0件 ・周知活動：市役所2階図書館入口に募集ポップ設置（通年）	○農作業支援隊による農業労働力確保事業（高知県農業協同組合） 事業を継続 ○農作業支援体制の整備 ・無料職業紹介所 ・周知活動：市役所2階図書館入口に募集ポップ設置（通年）	四万十市 （農林水産課・産業建設課） JA高知県 西土佐農業公社	◆無料職業紹介所紹介件数 H30：82件 → R6：180件 R2：50件 R3：53件 R4：35件	
	【農業：AP12】 (2) 集出荷支援体制の充実					
	○集出荷拠点施設の運営及び集出荷支援	○ぶしゅかん集出荷事業（四万十ぶしゅかん生産者組合）【再掲】 8～9月 集出荷支援 ○農産物の集出荷 JA高知県、しまんと美野里、西土佐ふるさと市 東富山を守る会	○ぶしゅかん集出荷事業（四万十ぶしゅかん生産者組合）【再掲】 9～10月 集出荷支援	四万十市 （農林水産課・産業建設課） JA高知県、生産者 大川筋振興組合 東富山を守る会	◆生産・出荷支援システム 取組件数 H30：5件 → R6：5件を維持 R2：5件 R3：5件 R4：5件 R5：5件	
	【農業：AP13】 (3) 地域内農業者の共同生産体制の構築					
	★共同生産体制の構築	○西土佐地域での共同生産体制の構築 JAIにおいて米ナス共同選果試験実施（6月～10月 生産者4名3名参加）	○西土佐地域での共同生産体制の構築 米ナス共同選果試験の継続（～10月） 米ナス共同選果の実施に向けた検討会実施	四万十市 （産業建設課） JA高知県、生産者		◆生産技術を有する者がリーダーとなり 共同生産を行うグループが結成され、出荷・販売が行なわれている
2 地元農畜産物の利用・販売促進						
1. 地元農畜産物の利用促進						
【農業：AP14】 (1) 地元消費拡大に向けた取組みの強化		主な内容 ○公共施設での利用促進、○地元消費拡大フェアの開催⇒ 連携AP 1 ○市内量販店等を拠点とした販路拡大⇒ 連携AP 2				
【農業：AP15】 (2) 直販機能の強化		主な内容 ◎直販所機能の強化⇒ 連携AP 2 ◎道の駅「よって西土佐」の機能拡充⇒ 連携AP 2、連携AP 8				
2. ブランド化の確立と販売促進						
【農業：AP16】 (1) ブランド化の推進		主な内容 ○戦略品目のブランド化、◎40010日プロジェクト、★新食肉センター整備に伴う養豚場の整備促進、★四万十牛を核とした西土佐地域の産業振興⇒ 連携AP 3				
【農業：AP17】 (2) 地元農畜産物を使った商品の開発・販売		主な内容 ○地元農畜産物を使った商品の開発、○意欲的な生産者への支援⇒ 連携AP 3 ◎産業間連携や広域連携による外周活動等、○商談会等販路開拓・拡大の支援⇒ 連携AP 8				
3. 有機農業の推進						
【農業：AP18】 (1) 有機農産物の販路開拓・拡大		主な内容 ○有機農産物の流通促進⇒ 連携AP 1、連携AP 8 ○公共施設での利用促進⇒ 連携AP 1				

四万十市産業振興計画 アクションプラン進捗管理シート 【令和6年度】

分野		上半期の取り組み状況 〈数量的に見える形で具体的に記載〉	下半期の取り組み予定 〈内容を具体的に記載〉	主な事業主体	定量的な目標 到達点（R6） 実績（直近）	備考 （定性的な目標、課題など）
戦略の柱 施策	アクションプラン					
	主な内容					
農業分野						
	【農業：AP19】 (2)有機農業の普及・啓発活動の推進					
	○有機農業の普及・啓発	○有機農業等総合支援事業【再掲】 ・堆肥等有機物利用促進 上半期（4月～9月）中村実績：1件	○有機農業等総合支援事業【再掲】 事業を継続	四万十市 （農林水産課・産業建設課） 地産地消推進団体 生産者	◆有機農業等総合支援事業 実施面積 H30：6.0ha → R6：6.0haを維持 R2：9.5ha R3：5.8ha R4：5.7ha R5：4.6ha	◆四万十川のブランドイメージにマッチした有機農業が推進され、消費者からの支持が集まり、農産物の高付加価値が高まっている
	3 担い手の確保・育成					
	1. 新規就農者の確保・育成					
	【農業：AP20】 (1)新規就農者の研修支援					
	○新規就農者の確保・育成 ○新規就農者に対する農地提供促進	○新規就農研修支援事業 研修生手当、受入農家等研修補助金を交付 ・中村地域 受入農家：継続2名、新規1名（R6.8月開始） ・西土佐地域 西土佐農業公社及び受入農家 継続1名 ○農地等の斡旋 ・空き農地、空きハウス情報収集・提供（中村地域）	○新規就農研修支援事業 事業を継続 ○農地等の斡旋 事業を継続	四万十市 （農林水産課・産業建設課） 四万十農園あぐりっこ 西土佐農業公社 JA高知県 生産者	◆新規就農者数 H27-H30平均2.8人/年 → 3人/年 R2：7人/年 R3：7人/年 R4：1人/年 R5：3人/年	
	【農業：AP21】 (2)新規就農支援体制の拡充					
	○相談支援体制の充実 ○経営安定への支援 ○就農開始時の支援	○就農相談会等 ・窓口等での相談（随時） ○新規就農支援チームによるトータルサポート ・営農指導、経営指導、事業導入、資金利用計画等のサポート ・経営計画作成支援等 ○農業次世代人材投資資金（経営開始型）交付 ・継続対象者：6名（中村5名・西土佐1名） ○新規就農者育成総合対策（経営開始資金）交付 ・継続対象者：3名（中村2名・西土佐1名） ○新規就農者育成総合対策（経営開始支援資金）交付 ・継続対象者：3名（中村2名・西土佐1名） ○新規就農者育成総合対策（就農準備資金）交付 ・継続対象者3名（中村2名・西土佐1名）、新規対象者1名（中村） ○新規就農者育成総合対策（就農準備支援資金）交付 ・継続対象者：2名（中村）	○就農相談会等 ・県外の合同就農相談会（大阪）出展1回（10月） ・県外の合同就農相談会（東京）出展1回（12月） ○新規就農支援チームによるトータルサポート ・営農指導、経営指導、事業導入、資金利用計画等のサポート ・経営計画作成支援等 ○農業次世代人材投資資金（経営開始型）交付 継続 ○新規就農者育成総合対策（経営開始資金）交付 新規：1名（中村） ○新規就農者育成総合対策（経営開始支援資金）交付 継続 ○新規就農者育成総合対策（経営発展支援事業費補助金）交付 新規：3名（中村2名・西土佐1名） ○新規就農者育成総合対策（就農準備資金）交付 継続 ○新規就農者育成総合対策（就農準備支援資金）交付 継続	四万十市 （農林水産課・産業建設課） 四万十農園あぐりっこ 西土佐農業公社 JA高知県	◆新規就農者数 H27-H30平均2.8人/年 H27-H30平均2.8人/年 → 3人/年 R2：7人/年 R3：7人/年 R4：1人/年 R5：3人/年	
	【農業：AP22】 (3)移住促進による新規就農支援					
	○移住就農者の誘致活動	○就農相談会等【再掲】 ・窓口等での相談（随時） ○市農業紹介PR映像配信 就農希望者へのPRのため研修施設や農作物（トマト、ピーマン、米ナス、ぶしゅかん、しまんと農法米、栗）を内容とした映像を配信	○就農相談会等【再掲】 ・県外の合同就農相談会（大阪）出展1回（10月） ・県外の合同就農相談会（東京）出展1回（12月） ○市農業紹介PR映像配信 事業継続	四万十市 （農林水産課・産業建設課） 四万十農園あぐりっこ 西土佐農業公社 JA高知県	◆新規就農者数 H27-H30平均2.8人/年 → 3人/年 R2：7人/年 R3：7人/年 R4：1人/年 R5：3人/年	
	2. 認定農業者等の育成					
	【農業：AP23】 (1)認定農業者制度の周知強化					
	○今後育成すべき農業者の把握、誘導	○地域計画策定に向けた取組 ・全16地区で協議の場を実施予定。結果の取りまとめ・公表。	○地域計画策定に向けた取組 ・全16地区で協議の場を実施予定。結果の取りまとめ・公表。	四万十市		

分野		上半期の取り組み状況 〈数量的に見える形で具体的に記載〉	下半期の取り組み予定 〈内容を具体的に記載〉	主な事業主体	定量的な目標 到達点（R6） 実績（直近）	備考 （定性的な目標、課題など）
戦略の柱						
施策						
アクションプラン 主な内容						
農業分野						
	○認定農業者制度の周知徹底	○経営所得安定対策推進事業 5月 中村地域：5回、西土佐地域：回 ○認定農業者制度（見込み含む） ・認定新規就農者（5年経過）へ制度説明・誘導 （5年経過の更新認定：中村地域2人、西土佐地域1名）	○認定農業者制度（見込み含む） ・5年経過の更新認定（中村地域：24人、西土佐地域：2人） ・認定新規就農者から移行の新規認定（中村地域：2人）	（農林水産課・産業建設課） 農業委員会 JA高知県	◆認定農業者数 H30：139人 → R6：150人 R2：131人 R3：127人 R4：122人 R5：124人	
	【農業：AP24】 ○認定農業者等のフォローアップの強化	○認定農業者のフォローアップ ・新規認定者の計画作成支援（中村地域：0件、西土佐地域：0件） ・再認定者の計画作成支援（中村地域：12件、西土佐地域：1件） ・広域認定者の計画認定支援（中村地域：3件、西土佐地域：0件）	○認定農業者のフォローアップ ・再認定者の計画策定支援（中村地域：24件、西土佐地域：2件） ・認定新規就農者から移行の新規認定（中村地域：2名）	四万十市 （農林水産課・産業建設課） JA高知県 認定農業者連絡協議会	◆認定農業者数 H30：139人 → R6：150人 R2：131人 R3：127人 R4：122人 R5：124人	
4 農地の利用促進						
1. 農地の利用調整						
	【農業：AP25】 ○農地中間管理機構の活用 ○地域の農業委員による農地の利用調整 ◎人・農地プランの実質化 ⇒地域計画の策定	○農地中間管理事業 ・市内全域で中間管理事業実施に向けた農地の掘り起こし ・掘り起こした農地の中間管理権設定（上半期実績：2,935㎡） ○農業委員等による農地の利用調整 ・農地パトロールの実施、利用意向調査実施、調査結果の取りまとめ結果（機構利用希望者）の機構への引渡し、情報提供 ○地域計画策定に向けた取組【再掲】 ・全16地区で協議の場を実施予定。結果の取りまとめ・公表。	○農地中間管理事業 事業を継続 ・掘り起こした農地の中間管理権設定 ○農業委員等による農地の利用調整 事業を継続 ○地域計画策定に向けた取組【再掲】 ・全16地区で協議の場を実施予定。結果の取りまとめ・公表。	四万十市 （農林水産課・産業建設課） 農業委員会		◆営農類型に応じた農地集積、農地利用の円滑化（流動化）が促進されている
	【農業：AP26】 ○入田、三里地区整備 ○利岡地区整備 ○その他の地区整備	○利岡地区（R5繰越、R6現年） ・補完工事及び換地業務 ○整備検討地区への説明会開催（楠島地区、蕨岡地区）	○利岡地区（R5繰越、R6現年） 事業継続 ○楠島地区 事業説明会	四万十市 （農林水産課・産業建設課） 地区組織	◆ほ場整備実施面積 H31：1,128.3ha → R6：1,144ha R3：1,142.3ha R4：1,142.3ha R5：1,142.3ha ※新たな整備はなし	
2. 耕作放棄地対策						
	【農業：AP27】 ○耕作放棄地の再生 ○耕作放棄地の発生防止対策	○耕作放棄地の再生 ・農地利用意向調査による再生地情報の取得、 ・農地パトロールによる再生地確認 ○耕作放棄地の発生防止対策 ・中山間地域等直接支払交付金（四万十市計） 交付予定額：86,386千円 交付組織数：50組織 ・多面的機能支払交付金（四万十市計） 交付予定額：104,434千円 交付組織数：57組織、1,353ha	○耕作放棄地の再生 事業継続 ○耕作放棄地の発生防止対策 事業継続	四万十市 （農林水産課・産業建設課） 農業委員会 集落協定組織 農地・水保全組織	◆中山間地域等直接支払制度の実施農地面積 H31：521.5ha →R6：521.5haを維持 R3：547.2ha R4：546.7ha R5：547.3ha ◆多面的機能支払制度の実施農地面積 H31：1,446.1ha →R6：1,446.1haを維持 R2：1,446.1ha R3：1,403.4ha R4：1,378.8ha R5：1,379.8ha	
	【農業：AP28】 ○適合品目の栽培促進	○栗暮プロジェクト【再掲】 ・西土佐橋地区栗実証農園運営 農業公社へ運営委託	○栗暮プロジェクト【再掲】 ・西土佐橋地区栗実証農園運営 農業公社へ運営委託 ・水田転換推進業（平場新植）0.6ha ・新改植推進（苗木補助）1,100本 ○ぶしゅかん産地化・普及推進事業【再掲】 ・新規定植（苗代への補助） ・有害鳥獣対策用防護柵（設置費補助）	四万十市 （農林水産課・産業建設課） 生産者	◆ぶしゅかん新植面積 H30：10.9ha → R6：25ha R2：13.0ha R3：13.6ha R4：14.9ha ◆栗栽培面積 H30：48ha → R6：60ha R2：52.2ha R3：55.0ha R4：58.6ha R5：60.2ha	

分野	戦略の柱	上半期の取り組み状況 〈数量的に見える形で具体的に記載〉	下半期の取り組み予定 〈内容を具体的に記載〉	主な事業主体	定量的な目標 到達点（R6） 実績（直近）	備考 （定性的な目標、課題など）
	施策					
	アクションプラン					
	主な内容					
林業分野						
1 四万十の山づくり						
1. 長期的視点に立った産地づくり						
【林業:AP 1】 (1) ヒノキ産地としての意識の醸成						
○ヒノキ産地としての市民意識の醸成		○「四万十ヒノキの家」での見学・宿泊体験の実施【再掲】 宿泊者:12組、延べ45人 見学者:66人（6月末現在） ○四万十ヒノキブランド化推進協議会【再掲】 ・四万十ヒノキについてパンフレット等でPR ・80ヒノキ（大口径ヒノキ）付加価値化の検討等 ・四万十ヒノキ原木の育成・施業方法の検討	○「四万十ヒノキの家」での見学・宿泊体験の実施【再掲】 事業を継続 ○四万十ヒノキブランド化推進協議会【再掲】 事業を継続	四万十市（農林水産課） 森林組合 林業事業体 四万十ヒノキブランド化推進協議会		◆市民、森林所有者へ品質に優れたヒノキ資源が全国有数であり、ヒノキ産地として森林整備の必要性が周知されているとともに、山（林業）や木材への関心が高まっている
○森林所有者の意識の醸成						
【林業:AP 2】 (2) 計画的な森林管理・経営の促進						
◎森林資源の現状把握とデータ管理の徹底		○森林経営管理制度の運営 ・意向調査業務：（西土佐）57.48ha ・林況調査等：（中村）241.67ha、（西土佐）528.69ha ・作業道開設：（中村）1,500m ・幅多地域森づくり推進センターによる集積計画案等の作成、市と林業事業体間の連携調整 ○市有林台帳、林地台帳（県）データ修正・管理 ・造林補助事業等により市有林台帳を随時更新 ○森林経営計画の作成（8月末現在） ・林業事業体等が森林経営計画を作成し経営類型を明確化 ・計画変更2件（中村市森林組合他1件） ・新規計画0件	○森林経営管理制度の運営 ・意向調査業務：（中村）600ha ・林況調査等：（中村）100ha、（西土佐）300ha ・保育間伐：（中村）30ha ・作業道開設：（中村）1,500m、（西土佐）2,000m ・幅多地域森づくり推進センターによる集積計画案等の作成、市と林業事業体間の連携調整 ○市有林台帳、林地台帳（県）データ修正・管理 ・造林補助事業等により市有林台帳を随時更新 ○森林経営計画の作成 ・林業事業体等が森林経営計画を作成し経営類型を明確化 ・計画変更、新規計画	四万十市（農林水産課） 林業事業体	◆「森の工場」の認定面積 H30:3,100ha → R6:3,900ha R2:3,987.3ha R3:2,969.0ha R4:1,829.3ha R5:1,481.1ha	◆計画的な森林管理・経営に向け「森の工場」や森林経営計画が整備促進されている
○経営類型明確化の推進						
○提案型集約化施業の推進						
【林業:AP 3】 (3) 循環型森林整備						
★未整備林の整備促進		○森林経営管理制度の運営【再掲】 ・意向調査業務：（西土佐） ・林況調査等：（中村）241.67ha、（西土佐）528.69ha ・作業道開設：（中村）1,500m ・幅多地域森づくり推進センターによる集積計画案等の作成、市と林業事業体間の連携調整	○森林経営管理制度の運営【再掲】 ・意向調査業務：（中村）600ha ・林況調査等：（中村）100ha、（西土佐）300ha ・保育間伐：（中村）30ha ・作業道開設：（中村）1,500m、（西土佐）2,000m ・幅多地域森づくり推進センターによる集積計画案等の作成、市と林業事業体間の連携調整	四万十市（農林水産課） 森林組合 林業事業体	◆「森の工場」の認定面積 H30:3,100ha → R6:3,900ha R2:3,987.3ha R3:2,969.0ha R4:1,829.3ha R5:1,481.1ha	◆計画的な森林管理・経営に向け「森の工場」や森林経営計画が整備促進されている
2. 長伐期施業の推進						
【林業:AP 4】 (1) 長伐期施業方針の啓発及び普及						
○長伐期施業方針の啓発及び普及				四万十市（農林水産課）		◆長伐期施業方針が広く認知されている
【林業:AP 5】 (2) 長伐期施業技術（ノウハウ）の蓄積と普及						
○市有林におけるモデル林の整備		○森の工場（協働の森づくり事業は別途掲載） ・馬道鼻：搬出間伐7.00ha（4,412千円） ・一ツ葉山1工区：搬出間伐8.50ha（8,665千円） ○協働の森づくり ・三里:下刈り6.53ha（1,598千円） ・三ツ又：下刈り4.23ha（1,085千円）	○森の工場（協働の森づくり事業は別途掲載）	四万十市（農林水産課） 森林組合 林業事業体 四万十ヒノキブランド化推進協議会		◆長伐期施業に関するノウハウ、技術体系が確立され、普及している
○長伐期施業の講習会等の開催						

分野		上半期の取り組み状況 〈数量的に見える形で具体的に記載〉	下半期の取り組み予定 〈内容を具体的に記載〉	主な事業主体	定量的な目標 到達点（R6） 実績（直近）	備考 （定性的な目標、課題など）
戦略の柱	施策					
	アクションプラン					
	主な内容					
林業分野						
3. 適切な皆伐、間伐による原木生産の拡大						
【林業：AP6】 (1) 森林の特性に応じた皆伐、間伐の実践						
○森林の特性に応じた皆伐、間伐の実践		○森の工場（協働の森づくり事業は別途掲載）【再掲】 ・馬道鼻：搬出間伐7.00ha（4,412千円） ・一ツ葉山1工区：搬出間伐8.50ha（8,665千円） ○協働の森づくり【再掲】 ・三里：下刈り6.53ha（1,598千円） ・ミツ又：下刈り4.23ha（1,085千円）	○森の工場（協働の森づくり事業は別途掲載）【再掲】	四万十市（農林水産課） 森林組合 林業事業体	◆原木生産量 H29：71,945m ³ → R6：75,000m ³ H30：55,025m ³ H31：68,396m ³ R2：67,311m ³ R3：62,964m ³	
【林業：AP7】 (2) 施業の効率化と低コスト化						
○作業道や林業機械導入への支援 ○林内路網の維持管理		○森の工場（協働の森づくり事業は別途掲載）【再掲】 ・馬道鼻：搬出間伐7.00ha（4,412千円） ・一ツ葉山1工区：搬出間伐8.50ha（8,665千円） ○協働の森づくり【再掲】 ・三里：下刈り6.53ha（1,598千円） ・ミツ又：下刈り4.23ha（1,085千円） ○緊急間伐総合支援事業 ・切捨間伐：3.36ha（198千円） ・搬出間伐：2.00ha（162千円） ・作業道：2,000m（3,176千円） ○森林・山村多面的機能発揮対策交付金事業 ・森林機能強化：L=568m（作業道整備） ○ふるさと暮らし支援事業補助金（作業道の改良・舗装） ・林道舗装：5路線（延長=260m、1,300千円） ・作業道舗装：2路線（総延長=100m、1,000千円）	○森の工場（協働の森づくり事業は別途掲載）【再掲】 ○林道維持補修：維持工事3件（4,000千円）	四万十市（農林水産課） 森林組合 林業事業体	◆作業道開設実績延長累計 H29：836,368m → R6：873,000m H30：864,854m H31：888,354m R2：910,829m R3：931,558m R4：963,569m	◆効率的な作業システムによる施業の低コスト化が進んでいる
【林業：AP8】 (3) 低コスト再造林、育林の検討						
○低コスト再造林、育林の実践 ○防護ネットの設置と捕獲の促進		○有害鳥獣捕獲報償金による捕獲 8月現在の捕獲頭数（ ）は計画 シカ 755頭（2,400頭）、イノシシ 670頭（1,700頭）、サル 11頭（50頭） ハビシシ 177頭（400頭）、カワ 214羽（400羽）、ノウサキ 45羽（100羽） ○食害ネット設置 ○国防護柵設置（事業主体：四万十市有害鳥獣被害対策協議会） ・鳥獣被害防止対策総合支援交付金 整備事業7地区 柵L=19,520m 29,672千円 推進事業（捕獲柵） 2,000千円	○有害鳥獣捕獲報償金による捕獲 事業を継続	四万十市（農林水産課） 森林組合 林業事業体 四万十市有害鳥獣被害対策協議会	◆シカの捕獲頭数 H30：2,776頭 → R6：4,500頭 R2：2,368頭 R3：2,818頭 R4：2,198頭 R5：1,744頭	◆低コスト再造林、育林のノウハウ、技術体系の確立が進んでいる
4. 林業事業体や担い手の確保、育成						
【林業：AP9】 (1) 林業事業体及び林業技術者の育成支援						
○林業事業体、林業技術者の育成 ○森林組合の経営力強化		○「緑の雇用」事業 雇用者11人（森林組合8人、林業事業体3人） 新規：4（組合2、事業体2）2年目：2（組合2、事業体0） 3年目：5（森林組合4、林業事業体1） ○林業担い手育成支援事業 緑の雇用事業で新規就業者を雇用している林業事業体に補助金交付 60,000円×12カ月×11人=7,920千円（見込） ○森林組合の経営力強化 市有林整備事業、協働の森づくり事業、森の工場を実施		四万十市（農林水産課） 森林組合 林業事業体 四万十ヒノキブランド化推進協議会 幡多林業活性化センター	◆新規林業就業者数 H27-H30平均5人/年 → R6：5人/年 R2：3人/年 R3：1人/年 R4：4人/年 R5：1人/年	◆経営能力の高い森林組合、林業事業体が効率的な生産活動を展開している ◆効率的な林業生産活動を行うことができる優れた担い手が育成されている

分野		上半期の取り組み状況 〈数量的に見える形で具体的に記載〉	下半期の取り組み予定 〈内容を具体的に記載〉	主な事業主体	定量的な目標 到達点（R6） 実績（直近）	備考 （定性的な目標、課題など）
戦略の柱	施策					
	アクションプラン					
	主な内容					
林業分野						
	【林業：AP10】 (2) 森林保育等の活動グループへのアプローチ					
	○兼業型林業事業者の育成支援	○原木増産推進事業（レンタルタイプ） ・小規模林家が行う林業機械レンタルの補助 林業機械：バックホウ等×2人 ○林地残材の搬出促進（バイオマス証明書発行）【再掲】		四万十市（農林水産課） 兼業型林業事業者		◆林業生産活動を行う多様な担い手が育成されている
	【林業：AP11】 (3) 自伐林家及び集落組織等の育成					
	○自伐林家及び集落組織等の育成	○森林・山村多面的機能発揮対策交付金事業【再掲】 ・中村地域2組織、西土佐地域2組織が森林保全や山村地域活性化などの取り組みを実施 ○林地残材の搬出促進（バイオマス証明書発行）【再掲】		四万十市（農林水産課） 自伐林家等		◆林業生産活動を行う多様な担い手が育成されている
2 供給体制の強化						
1. 加工事業体の生産力等強化						
	【林業：AP12】 (1) 木材・木工製品の生産の拡大・商品力の強化	主な内容 ○木材・木工製品の生産の拡大・商品力の強化⇒連携AP 4				
	2. 供給体制の効率化					
	【林業：AP13】 (1) 木材流通ネットワークの構築	主な内容 ○木材流通ネットワークの構築⇒連携AP 1				
	3 市産材の利用促進と販売力の強化					
1. 市産材の利用促進						
	【林業：AP14】 (1) 木造住宅の建築促進	主な内容 ○木造住宅建築への支援、○コーディネート組織の設立⇒連携AP 1				
	【林業：AP15】 (2) 市産材の利用促進及び情報発信の強化	主な内容 ○木造化、木質化への情報発信、普及・啓発の強化、○地元消費拡大フェアの開催⇒連携AP 1 ◎産業間連携や広域連携による外商活動等⇒連携AP 8				
2. 木質バイオマス利用促進						
	【林業：AP16】 (1) 林地残材等の搬出の促進	主な内容 ○林地残材等の搬出の促進⇒連携AP 1				
	【林業：AP17】 (2) 木質バイオマス利用設備の普及促進	主な内容 ○木質バイオマスボイラー等の普及促進⇒連携AP 1				
3. 四万十ヒノキブランドの確立と販売力の強化						
	【林業：AP18】 (1) 四万十ヒノキブランドの確立	主な内容 ○四万十ヒノキのブランド化の推進⇒連携AP 4				
	【林業：AP19】 (2) 四万十ヒノキ製品の生産拡大、商品力の強化	主な内容 ○木材・木工製品の生産の拡大・商品力の強化⇒連携AP 4				
	【林業：AP20】 (3) 四万十ヒノキ製品の販売力の強化	主な内容 ○四万十ヒノキ製品の販売力の強化⇒連携AP 8				
4 健全な森づくり						
1. 人と鳥獣の良好・適切な環境づくり						
	【林業：AP21】 (1) 鳥獣被害対策	主な内容 ○防護ネットの設置と捕獲の促進⇒林業AP 8				
	【林業：AP22】 (2) 捕獲の担い手確保、育成					
	○捕獲の担い手の確保、育成	○新規狩猟者の確保（市広報8月号でPR） ○新規狩猟者免許試験予備講習会受講料補助金（利用者10人） ○新規狩猟者射撃教習受講料補助（利用者1名）	○新規狩猟者の確保 事業を継続	四万十市（農林水産課） 猟友会	◆シカの捕獲頭数 H30：2,776頭 → R6：4,500頭 R2：2,368頭 R3：2,818頭 R4：2,198頭 R5：1,744頭	

分野	戦略の柱		上半期の取り組み状況 〈数量的に見える形で具体的に記載〉	下半期の取り組み予定 〈内容を具体的に記載〉	主な事業主体	定量的な目標 到達点（R6） 実績（直近）	備考 （定性的な目標、課題など）
	施策						
	アクションプラン						
	主な内容						
林業分野							
	2. 森のものの活用						
	【林業：AP23】						
	(1) 特用林産物の生産活動の支援とPR						
	○特用林産物の生産活動への支援とPR		○特用林産振興事業 しいたけ原木・種駒購入補助（原木補助単価150円/本、種駒補助率1/2） 交付決定額：426千円		四万十市（農林水産課）	◆特用林産物（しいたけ、木炭）生産量 H29:23,466kg → R6:48,000kg H31:42,665kg R2:32,899kg R3:25,600kg R4:12,433kg	

四万十市産業振興計画 アクションプラン進捗管理シート 【令和6年度】

分野		上半期の取り組み状況 〈数量的に見える形で具体的に記載〉	下半期の取り組み予定 〈内容を具体的に記載〉	主な事業主体	定量的な目標 到達点（R6） 実績（直近）	備考 （定性的な目標、課題など）
戦略の柱						
施策						
アクションプラン 主な内容						
水産業分野						
1 水産資源の回復・生産量UP						
1. 天然水産資源の回復・増殖						
【水産AP1】 (1) 漁場環境、資源量等の調査・研究						
○漁場環境、資源量等の調査・研究			○四万十川漁業振興協議会補助金 ・アユ疾病の疫学調査（10月～3月） ・アユ仔魚調査（10月～3月） ・ヒトエグサ調査（10月～3月）	四万十市（農林水産課） 四万十川漁業振興協議会 漁業協同組合		◆漁場環境や資源量等の継続的な把握と減少要因の分析が進み、漁業者と情報共有され、天然資源の回復・増殖に向け関係者の連携した取組みが進んでいる
○調査結果の広報活動						
【水産AP2】 (2) 生育・漁場環境の保全・整備						
○スジアオノリ生育・漁場環境の保全・整備		○ヒトエグサ漁場整備支援（四万十川下流漁業協同組合） ・河川形状整備等		四万十市（農林水産課） 四万十川自然再生協議会 漁業協同組合	◆内水面漁業漁獲量 H29:49t → R6:50t H31:29t R2:36t R3:47t R4:41t	
○アユの産卵場の再生と保全管理		○四万十川自然再生事業（国土交通省・四万十川自然再生協議会） アユの産卵場整備や汽水域の浅場再生などを行い、「モニタリング」調査を実施			◆海面漁業漁獲量 H29:14t → R6:15t H30:13t H31～R5：―t ※市町村別統計廃止	
○イセエビ漁礁設置による漁場整備		○資源保護や漁獲量確保、河川環境保全のための取組（四万十川漁業振興協議会） ・新組織の設立に向けた要望活動の準備	○資源保護や漁獲量確保、河川環境保全のための取組（四万十川漁業振興協議会） ・新組織の設立に向けた要望活動			
2. 栽培漁業等の推進						
【水産AP3】 (1) 効果的な種苗放流の推進						
○内水面資源の種苗放流		○稚アユ放流補助金 ・四万十川中央漁業協同組合：稚アユ832kg ・四万十川西部漁業協同組合：稚アユ764kg		四万十市（農林水産課） 漁業協同組合	◆内水面・沿岸資源の種苗放流 R6：維持	
○沿岸資源の種苗放流		○稚アユ等放流（独自） ・四万十川下流漁業協同組合：稚アユ40kg、うなぎ31.82kg ・四万十川中央漁業協同組合：うなぎ50kg ・四万十川西部漁業協同組合：アメゴ20kg、うなぎ113.65kg				
【水産AP4】 (2) アオサの生産拡大						
○区画あたりの生産拡大		○四万十川漁業振興協議会補助金【再掲】 ・ヒトエグサ漁場環境調査（水温、塩分の測定）		四万十市（農林水産課） 四万十川漁業振興協議会	◆内水面漁業漁獲量 H29:49t → R6:50t H30:37t H31:29t R2:36t R3:47t R4:41t	◆安定した生産量と品質が確保され、入札業者の増加と高値安定が確保されている
○新たな漁場の開拓と新規参入の促進		○生産工程の均一化と品質管理（四万十川下流漁業協同組合）【再掲】 ・生産工程により「アサ」の生産工程の均一化と品質管理を継続		四万十川下流漁業協同組合		
○生産・品質管理の徹底						
【水産AP5】 (3) スジアオノリの栽培技術の研究などへの支援						
○スジアオノリの栽培技術への支援（助言など）		○スジアオノリ陸上養殖の調査・研究 ○実施場所や補助事業等の検討 ○四万十産川ノリ陸上養殖場整備事業 ・地域経済循環創造事業費補助金:20,481千円	○スジアオノリ陸上養殖の調査・研究 ・事業を継続 ○しまんと海藻エコイノベーション共創拠点（高知大学）の整備 ・高知大学との連携による海藻を基盤とした地域拠点の整備・推進	四万十市（農林水産課） 四万十川下流漁業協同組合 民間事業者		◆スジアオノリの自然栽培技術が向上し、安定した生産が行われている
3. 地域に根差した資源管理の仕組みづくり						
【水産AP6】 (1) 漁場利用の新たなルールづくり						
○漁場利用のための新たなルールづくり		○エビ資源保護（実施主体：高知県内水面漁場管理委員会） ・県内全河川でテナガエビ類採捕禁止（9月～）（ポスター掲示）	○エビ資源保護（実施主体：高知県内水面漁場管理委員会） ・県内全河川でテナガエビ類採捕禁止（～3月）（広報掲載）	四万十市（農林水産課） 四万十川漁業振興協議会		◆市民、漁業者の意識と機運が高まり、資源管理の取組みが進んでいる
【水産AP7】 (2) 資源保護のための情報発信の強化						
○資源保護のための情報発信の強化		○禁漁期間の周知と資源保護の啓発 ・密漁防止ポスター掲示	○禁漁期間の周知と資源保護の啓発 ・密漁防止ポスター掲示 ・各種禁漁期間の周知（広報掲載）	四万十市（農林水産課） 漁業協同組合 高南幡東漁業秩序を守る会（海面漁業）		◆市民、漁業者の意識と機運が高まり、資源管理の取組みが進んでいる

分野		上半期の取り組み状況 〈数量的に見える形で具体的に記載〉	下半期の取り組み予定 〈内容を具体的に記載〉	主な事業主体	定量的な目標 到達点（R6） 実績（直近）	備考 （定性的な目標、課題など）
戦略の柱						
施策						
アクションプラン						
主な内容						
水産業分野						
4. 担い手の確保、育成						
【水産AP8】 (1)新規就業者のための研修・フォローアップ						
○講習会、研修会の開催 ○受入漁家による研修制度の拡充				四万十市（農林水産課） 漁業協同組合	◆漁業体験研修の受講者数 R2～R6の5年間で3人 R2～R5：0人	
2 水産物の加工、販売促進						
1. 水産物の高付加価値化の推進						
【水産AP9】 (1)今ある商品の磨き上げ		主な内容 ○品質管理の向上、○商品力の強化⇒ 連携AP5				
【水産AP10】 (2)新たな商品開発		主な内容 ○未利用資源等の掘起しと利活用⇒ 連携AP5、連携AP10 ○新たな商品の企画・開発の支援⇒ 連携AP5				
2. 販売力の強化と販路拡大						
【水産AP11】 (1)漁協の販売力の強化		主な内容 ○漁協の販売機能の強化⇒ 連携AP1、連携AP8				
【水産AP12】 (2)ブランド力の強化と販路拡大		主な内容 ○ブランディングの構築と発信、◎産業間連携や広域連携による外商活動等、○商談会等販路開拓・拡大の支援⇒ 連携AP8 ○地元消費拡大フェアの開催⇒ 連携AP1				
3. 魚食文化の磨き上げと発信						
【水産AP13】 (1)魚食文化の磨き上げ		主な内容 ○魚食文化の磨き上げ⇒ 連携AP10				
【水産AP14】 (2)魚食文化の発信強化		主な内容 ○グルメイベント等での魚食文化の発信⇒ 連携AP11				
3 水産資源を活用した交流の拡大						
1. 体験交流の推進						
【水産AP15】 (1)魅力ある体験商品づくり						
○体験商品の磨き上げ				四万十市 （農林水産課・産業建設課・観光商工課） 漁業協同組合 観光協会		◆自然や漁業への関心と資源保護に対する市民意識が向上している
【水産AP16】 (2)体験教室等の開催						
○体験教室の開催		○川漁体験学習等（四万十川中央漁業協同組合、四万十川西部漁業協同組合） ・稚アユ放流（4月：具同小60名、5月：藤岡小17名、西土佐小9名） ・アユしゃくり漁体験（7月：大用小23名） ・アユ投網漁体験（9月：中村西中67名） ・アユつかみどり体験（9月：中村幼稚園100名） ○四万十川ガキ体験（7月21日） 主催：四万十の日実行委員会 対象：小学生、保護者（30名参加） 体験内容：カヌー、サップでの川下り ○水辺の楽校（5～9月） 主催：四万十の日実行委員会 対象：中村小、大用小、具同小、藤岡小、東中筋小、八束小、西土佐小、竹島小、中村南小の3～4年生（291名参加） 体験内容：水生生物採取、清流度調査、干潟の生き物調査 ○親子川漁体験（7月27日） 主催：四万十の日実行委員会 対象：小学生親子（62名参加） 講師：四万十川中央漁協組合 体験内容：投網、アユつかみどり 提供アユ：合計40kg（四万十川中央漁協組合） ○川漁師体験（8月4日、18日） 主催：四万十の日実行委員会 対象：小学生、保護者（40名参加） 講師：やかた舟さこや 体験内容：しば漬け漁、樽漕ぎ	○水辺の楽校（10月） 主催：四万十の日実行委員会 対象：西土佐小、具同小、下田小の3～4年生（83名参加予定） 体験内容：水生生物採取、清流度調査、干潟の生き物調査	四万十市 （農林水産課・産業建設課） 漁業協同組合 四万十川漁業振興協議会 四万十の日実行委員会	◆自然や漁業への関心と資源保護に対する市民意識が向上している	

分野		上半期の取り組み状況 〈数量的に見える形で具体的に記載〉	下半期の取り組み予定 〈内容を具体的に記載〉	主な事業主体	定量的な目標 到達点（R6） 実績（直近）	備考 （定性的な目標、課題など）
戦略の柱						
施策						
アクションプラン 主な内容						
商工業分野						
1 顧客に選ばれる商工業の振興						
1. 地域資源を活かした商品開発						
【商工AP1】 (1) 今ある特産品等商品の磨き上げ		主な内容 ○テストマーケティング、○商品の品質、ラベル等の磨き上げや表示の適正化⇒ 連携AP6				
【商工AP2】 (2) 魅力ある素材・アイデアの掘起し		主な内容 ○事業者、地域等の提案を拾い上げる体制づくり、○事業者間のマッチング機会の創出⇒ 連携AP6				
【商工AP3】 (3) 新たな特産品等の商品開発		主な内容 ○新たな商品・サービス等の企画・開発支援⇒ 連携AP6				
【商工AP4】 (4) 商品の販路開拓・販売促進		主な内容 ○地元消費拡大フェアの開催⇒ 連携AP1 ○商談会等販路開拓・拡大の支援、○産業間連携や広域連携による外商活動等⇒ 連携AP8 ○一元的な情報発信の促進⇒ 連携AP8、連携AP9、連携AP11				
【商工AP5】 (5) 商品開発、販路開拓の中核となる人材、組織の育成等		主な内容 ○事業者や地域グループ等の人材育成⇒ 連携AP6、連携AP8 ○新食肉センターの整備・新食肉センターを核とした地域産業の振興⇒ 連携AP2				
2. 四万十の“食”文化の磨き上げと発信						
【商工AP6】 (1) 四万十の“食”文化の磨き上げ		主な内容 ○四万十の食文化の掘起し、磨き上げ、○塩たたきのブランド化の推進⇒ 連携AP10				
【商工AP7】 (2) 地域を拠点とした食の発信		主な内容 ○食の発信イベント・企画の磨き上げ及び拡充⇒ 連携AP11 ○一元的な情報発信の促進⇒ 連携AP8、連携AP9、連携AP11				
【商工AP8】 (3) 都市圏等を拠点とした食の発信		主な内容 ○産業間連携や広域連携による外商活動等⇒ 連携AP8 ★県外事業者等の拠点を活用した外商活動⇒ 連携AP11				
3. 地震防災対策における建設事業の推進						
【商工AP9】 (1) 施設の長寿命化・南海地震対策の強化による建設事業の確保						
○施設の長寿命化・南海地震対策の強化による建設事業の確保		○施設の長寿命化・南海地震対策関連の建設事業費 (令和6年度当初予算額【繰越含】2,473,651千円) 【R5当初】計 2,212,663千円 ・津波避難路災害復旧工事 2,000千円 ・防災減災ため池整備（県営事業負担金） 7,000千円 ・住宅等耐震改修助成 146,428千円 ・老朽住宅除去事業費助成 50,000千円 ・公共施設適正管理推進（道路長寿命化）50,780千円 ・農業水利施設長寿命化(県営事業) 5,000千円 ・道路メンテナンス事業 558,453千円 ・防災安全社会資本整備交付金事業 226,501千円 ・市営住宅屋上防水・外壁改修(2棟) 51,751千円 ・都市防災推進 49,126千円 ・具同保育所移転 1,065,624千円 【繰越分】計 260,988千円 ・津波避難路災害復旧工事 39,531千円 ・防災減災ため池整備（県営事業負担金）5,561千円 ・老朽住宅除却事業費助成 12,305千円 ・農業水利施設長寿命化（県営事業） 7,649千円 ・道路メンテナンス事業 111,215千円 ・防災安全社会資本整備交付金事 84,727千円	四万十市 (地震防災課ほか)	◆施設の長寿命化・南海地震対策 R6:強化 ◆住宅耐震化率 H30:69.8% → R6:81.9% H31:71.4% R2:73.3% R3:75.8% R4:77.6% R5:79.6%	◆建設業を支える若年層の技術者が増加している	
2 中心市街地・商店街等の活性化						
1. 中心市街地、商店街等の魅力・賑わいづくり						
【商工AP10】 (1) 回遊性と集客力向上のための拠点づくり						
◎新たな拠点（旧土豫銀行跡地）による情報発信の強化と賑わいの創出⇒ 連携AP2、連携AP8 ○拠点施設間での連携⇒ 連携AP2 ○文化複合施設を中心とするまちの賑わいづくり		○文化複合施設整備事業 ・駐車場舗装整備工事（令和5年10月21日～令和6年6月30日） ・屋外付帯施設整備工事（令和6年1月5日～令和6年4月26日） ・案内標識設計業務（令和6年7月20日～令和6年10月21日） ・周辺家屋等事後調査業務（令和6年6月25日～令和6年10月31日）	○文化複合施設整備事業 ・案内標識設計業務（令和6年7月20日～令和6年10月21日） ・案内標識設置工事（令和6年12月～令和7年2月） ・周辺家屋等事後調査業務（令和6年6月25日～令和6年10月31日）	四万十市 (生涯学習課・まちづくり課・観光商工課） 商工会議所 商店街振興組合 JA高知県 事業者	◆商店街通行者数（平日） H27～H30平均： 5,338人/日 →R6:6,200人/日 R2:5,824人/日 R3:4,743人/日 R4:4,359人/日	

分野		上半期の取り組み状況 〈数量的に見える形で具体的に記載〉	下半期の取り組み予定 〈内容を具体的に記載〉	主な事業主体	定量的な目標 到達点（R6） 実績（直近）	備考 （定性的な目標、課題など）
戦略の柱						
施策						
アクションプラン 主な内容						
商工業分野		○文化複合施設活用事業（仮称） しまんとびあ主催・共催事業（指定管理者） ・開館記念式典・美術展（令和6年4月29日） ・金子三勇士ピアノリサイタル（令和6年4月30日） ・映画上映会（令和6年5月1日） ・夜カフェ（令和6年5月2日） ・まるごとしまんとびあ（令和6年5月3日） ・山崎まさよしスペシャルライブ（令和6年5月4日） ・映画上映会（令和6年5月5日） ・施設開放事業　しまんとホールひとりじめ（令和6年5月6日） ・梶原徹也のリズムあそびワークショップ（令和6年7月13日） ・ぐるっと！しまんとびあ探検隊（令和6年7月30日） ・市民大学 第1回　伊沢拓司（令和6年7月21日） 第2回　谷本道哉（令和6年8月4日） 第3回　木山裕策（令和6年9月1日） ・救急フェア×しまんとびあ 矢守教授講演会（令和6年8月31日） 出張！みんなの町の消防隊（令和6年9月7日） ・しまんとびあシネマ倶楽部『PERFECT DAYS』（令和6年9月23日） ・しまんとびあカルチャー倶楽部（年10講座（24コマ）） ・しまんとびあ　びあチャンネル（YouTube） その他貸館に関する業務 市主催・共催事業 ・第20回四万十市文化祭（令和6年7月～令和7年1月） ・四万十川国際音楽祭中村交響楽団定期演奏会（令和6年8月18日）	○文化複合施設活用事業（仮称） しまんとびあ主催・共催事業（指定管理者） ・施設開放事業　しまんとホールひとりじめ（令和6年10月19日～22日） ・しまんとびあシネマ倶楽部（令和6年12月1日）（令和7年1月3日） ・学校アウトリーチ（バリトン森翔悟コンサート）（令和7年1月20日～23日） ・実践！ボランティア講座（令和7年1月25日～26日） ・しまんとびあプレシャス・コンサート　三山ひろし（令和7年2月24日） ・しまんとびあバラエティタイム（落語　桂宮治）（令和7年3月20日） ・しまんとびあ　びあフェスティバル（令和7年3月23日） ・しまんとびあカルチャー倶楽部（年10講座（24コマ）） ・しまんとびあ　びあチャンネル（YouTube） ・市民企画後援事業 ・しまんとびあ2階展示スペース　みちよってひろば（随時） その他貸館に関する業務 市主催・共催事業 ・第20回四万十市文化祭（令和6年7月～令和7年1月） ・四万十川国際音楽祭　キュッヒルコンサート（令和6年10月12日） ・公共ホール現代ダンス活性化事業（令和6年10月24日～26日） ・美術展（令和6年11月15日～28日） ・四万十川国際音楽祭　Jr. 弦楽アンサンブル（令和7年3月9日）		R5：5,859人/日	
【商工AP11】 (2) 商店街の機能向上						
○中心商店街活性化協議会の開催	○中心市街地にぎわい拠点施設維持管理事業　【再掲】 （実施主体：四万十にぎわい商店株式会社）	○中心市街地にぎわい拠点施設維持管理事業　【再掲】 （実施主体：四万十にぎわい商店株式会社）	四万十市 （観光商工課・産業建設課・まちづくり課） 商工会議所・商工会 商店街振興組合 事業者	◆商店街通行者数（平日） H27～H30平均：5,338人/日 →R6：6,200人/日 R2：5,824人/日 R3：4,743人/日 R4：4,359人/日 R5：5,859人/日		
○商店街空間整備	○地域おこし協力隊事業　【再掲】 ・商店街リーダー育成、啓発	○地域おこし協力隊事業　【再掲】 ・商店街リーダー育成、啓発				
○情報発信機能の充実						
【商工AP12】 (3) 日常の賑わいにつながる仕組みづくり						
○イベント開催等活性化の仕組みづくり	○商店街等活性化事業（モデル事業）　【再掲】 土佐中村一條公家行列「藤まつり」開催の支援（5月） （実施主体：中村商工会議所）	○商店街等振興計画推進事業費補助金 チャレンジショップ事業（実施主体：天神橋商店街振興組合） ・チャレンジャー1名卒業（サービス業1名）　→　開業	四万十市 （観光商工課・産業建設課 商工会議所・商工会 商店街振興組合	◆商店街通行者数（平日） H27～H30平均：5,338人/日 →R6：6,200人/日 R2：5,824人/日 R3：4,743人/日 R4：4,359人/日 R5：5,859人/日 ◆商店街の新規出店数 R6：10件/5年 R2：5件/年		
○個店のサービス向上	○よさこい四万十開催（9月）　【再掲】 ○商店街等活性化事業　【再掲】 商店街振興組合イベント（納涼祭等）開催支援（8月） （実施主体：天神橋・東下町・中村一条通　各商店街振興組合）					
○個性が光る店舗の集積	○商店街等振興計画推進事業費補助金 チャレンジショップ事業（実施主体：天神橋商店街振興組合） ・チャレンジャー1名卒業（サービス業1名）　→　開業					

分野		上半期の取り組み状況 〈数量的に見える形で具体的に記載〉	下半期の取り組み予定 〈内容を具体的に記載〉	主な事業主体	定量的な目標 到達点（R6） 実績（直近）	備考 （定性的な目標、課題など）
戦略の柱	施策					
	アクションプラン					
	主な内容					
商工業分野						
		・チャレンジャー募集、運営委員会開催（毎月） ○中心商店街等活性化事業【再掲】 ・拠点施設を核とした商店街活性化の協議（毎月） ・商店街広報誌作成 ・電子決済案内ステッカー作成 ・活性化イベント はれのぼマルシェ（4月、6月、8月） （実施主体：四万十にぎわい商店株式会社）	○中心商店街等活性化事業【再掲】 ・拠点施設を核とした商店街活性化の協議（毎月） ・商店街広報誌作成 ・活性化イベント はれのぼマルシェ（偶数月予定） （実施主体：四万十にぎわい商店株式会社） ・活性化イベント 中心商店街スタンプラリー（11月予定） （実施主体：四万十市商店街振興組合連合会女性部）		R3：1件/年 R4：4件/年 R5：4件/年	
	【商工AP13】 (4) 空き店舗対策					
	○空き店舗情報の発信強化とマッチング機会の提供 ○空き店舗改修等の支援	○空き店舗対策事業 ・空き店舗改修支援（予算額750千円） 申請件数：0件（9月末時点） ・商店街店舗兼住宅改修支援（改修費支援 ※補正対応） 申請件数：0件（9月末時点）	○空き店舗対策事業 ・空き店舗改修支援（予算額750千円） 申請見込：2件 ・商店街店舗兼住宅改修支援（改修費支援 ※補正対応） ○商店街空き店舗調査 ・市内7商店街振興組合地域の空き店舗調査 ※2月に実施予定	四万十市（観光商工課・産業建設課） 商工会議所・商工会 商店街振興組合	◆商店街の新規出店数 R6：10件/5年 R2：5件/年 R3：1件/年 R4：4件/年 R5：4件/年	
2. 創業や経営革新への支援強化						
	【商工AP14】 (1) 経営指導などサポート体制の強化					
	○経営指導などサポート体制の強化	○商工業者経営改善普及事業（中村商工会議所、西土佐商工会） 商工会議所、商工会、金融機関等関係機関が連携し、経営についてトータルサポート ○先端設備等導入計画の認定 ・認定件数5件、変更認定4件 ○中小企業振興資金保証料補給	○先端設備等導入計画の認定 ○中小企業振興資金保証料補給	四万十市 （観光商工課・産業建設課） 商工会議所・商工会	◆創業に関する相談件数 H30：30件/年 → R6：45件/年 R2：30件/年 R3：42件/年 R4：36件/年 R5：28件/年	
	【商工AP15】 (2) 創業や経営革新に意欲ある事業者（人材）の育成、スキルアップ					
	○事業者の育成、スキルアップ	○商店街等振興計画推進事業費補助金【再掲】 チャレンジショップ事業（実施主体：天神橋商店街振興組合） ・チャレンジャー1名卒業（サービス業1名） → 開業 ・チャレンジャー募集、運営委員会開催（毎月）	○商店街等振興計画推進事業費補助金【再掲】 チャレンジショップ事業（実施主体：天神橋商店街振興組合） ・チャレンジャー募集、運営委員会開催（毎月）	四万十市 （観光商工課・産業建設課） 商工会議所・商工会	◆創業に関する相談件数 H30：30件/年 → R6：45件/年 R2：30件/年 R3：42件/年 R4：36件/年 R5：28件/年	
3 中山間地域の商業機能の確保						
1. 小さな（田舎）ビジネスの推進						
	【商工AP16】 (1) 集落、小グループが取り組むコミュニティビジネス等の発掘、育成	主な内容 ○事業者、地域等の提案を拾い上げる体制づくり、○地域ならではのアイデア、資源を活かした商品開発⇒ 連携AP 6				
	【商工AP17】 (2) 地域の人、もの、コトの発信	主な内容 ◎地域の人、もの、コトの発信⇒ 連携AP 8				
	【商工AP18】 (3) ビジネスの拠点づくり	主な内容 ○拠点ビジネスの推進⇒ 連携AP 2 ◎道の駅「よって西土佐」の機能拡充⇒ 連携AP 2、連携AP 8 ★四万十牛を核とした西土佐地域の産業振興⇒ 連携AP 3				
4 企業誘致						
1. 情報通信関連産業の誘致促進						
	【商工AP19】 (1) 誘致に向けたリサーチ					
	○誘致にかかるリサーチ	○既誘致企業との意見交換 ○先進自治体の事例収集	○企業誘致対策 2月予定 誘致企業訪問（東京） ○企業誘致に係る基本方針の検討・策定	四万十市 （観光商工課）	◆シェアオフィスへの誘致 企業数 R6：2社/5年 R2：0社 R3：0社 R4：0社 R5：0社	

分野		上半期の取り組み状況 〈数量的に見える形で具体的に記載〉	下半期の取り組み予定 〈内容を具体的に記載〉	主な事業主体	定量的な目標 到達点（R6） 実績（直近）	備考 （定性的な目標、課題など）
戦略の柱	施策					
	アクションプラン					
	主な内容					
商工業分野						
	【商工AP20】 (2) 誘致活動の推進					
	○県と連動した誘致活動の推進 ○支援メニューの創設・受入体制づくり	○誘致企業の雇用の促進 誘致企業：ソウルドアウト（株） 立地促進事業費補助金（2,250千円）	○誘致企業の雇用の促進 誘致企業訪問（東京）	四万十市 （観光商工課・農林水産課）	◆シェアオフィスへの誘致企業数 R6：2社/5年 R2：0社 R3：0社 R4：0社 R5：0社 ◆次世代施設園芸等への誘致企業数 H30：0社 → R6：1社 R2：0社 R3：0社 R4：0社 R5：0社 ◆既誘致企業での雇用者数 R6：80名/5年 R2：42人 R2：53人 R4：59人 R5：38人	
	【商工AP21】 (3) 遊休施設等を利活用したシェアオフィス等の整備					
	○シェアオフィス等の整備	○企業誘致対策 ・企業誘致勉強会へ参加（シェアオフィス等） ・シェアオフィス整備の情報収集及び検討	○企業誘致対策 ・シェアオフィス整備の情報収集及び検討	四万十市（観光商工課）	◆シェアオフィスへの誘致企業数 R6：2社/5年 R2：0社 R3：0社 R4：0社 R5：0社	

分野	戦略の柱		上半期の取り組み状況 〈数量的に見える形で具体的に記載〉	下半期の取り組み予定 〈内容を具体的に記載〉	主な事業主体	定量的な目標 到達点（R6） 実績（直近）	備考 （定性的な目標、課題など）
	施策						
	アクションプラン						
	主な内容						
観光分野							
1 滞在型の観光地づくり							
1. 地域の観光資源、フィールドを活かした滞在型の観光商品づくり							
【観光AP 1】 (1) 観光リサーチの徹底			主な内容 ○観光マーケティングリサーチ⇒ 連携AP 7				
【観光AP 2】 (2) 今ある観光商品の磨き上げ			主な内容 ○観光商品としての検証と磨き上げ⇒ 連携AP 7				
【観光AP 3】 (3) 新たな観光商品づくり			主な内容 ○観光商品づくり研修会等の開催、○異業種連携の強化⇒ 連携AP 7				
【観光AP 4】 (4) 食の魅力を活かした観光振興			主な内容 ○食の魅力を活かした観光地づくり、★自然・体験型の観光と歴史や文化、食とが一体となった観光プログラムの造成・発信及び販売○食の発信・普及イベント等の開催⇒ 連携AP11 ★四万十牛を核とした西土佐地域の産業振興⇒ 連携AP 3				
2. 広域連携による周遊観光の推進							
【観光AP 5】 (1) 広域連携による周遊観光の推進			主な内容 ○周遊観光プランの造成・発信及び販売⇒ 連携AP 7 ○広域連携によるキャンペーンの展開⇒ 連携AP 9				
2 観光商品の外商の推進							
1. 観光商品のセールス及び情報発信の強化							
【観光AP 6】 (1) 観光商品のセールス強化			主な内容 ○営業力のある人材、組織の育成、○旅行会社への営業活動の促進、○旅行商品商談会等への出展、○海外への営業活動の促進⇒ 連携AP 9				
【観光AP 7】 (2) 広報・プロモーションの強化			主な内容 ○多様な媒体を活用した広報活動の強化、○ターゲットに合わせたプロモーションの展開⇒ 連携AP 9 ○一元的な情報発信の促進⇒ 連携AP 8、連携AP 9、連携AP11 ◎産業界連携や広域連携による誘客（PR）活動⇒ 連携AP 9、連携AP11				
3 おもてなしの向上							
1. おもてなし環境の整備							
【観光AP 8】 (1) 四万十川流域観光の拠点施設の整備、機能強化							
○拠点施設の拡充、機能強化			○入田ヤナギ林整備 ・草刈、刈草収集、焼却、木取り（7～9月） ○観光拠点施設整備 ・四万十川学遊館 バックヤード空調修繕業務(1,300千円) 多目的室空調修繕業務(1,172千円)	○入田ヤナギ林整備 ・耕運、木取り（1回）、周辺整備、草刈り、遊歩道整備（10～2月） ○観光拠点施設整備	四万十市（観光商工課） 観光協会	◆公設観光施設等利用者数 H30:162,247人 → R6:170,000人 R2:128,018人 R3:147,689人 R4:179,732人 R5:176,448人	
【観光AP 9】 (2) 二次交通の充実							
○二次交通の運行形態の見直し・拡充と情報発信			○四万十川バス運行 ・4～9月 91日運行(中村駅⇄沈下橋⇄江川崎駅) GW(4/27～5/6)、土、日、祝日及び夏休み(7/20～8/31の全期間) ○市内循環バス（しまんとあかめ号）の運行 ・4～9月 91日運行 中村駅⇒宿泊施設⇒佐田沈下橋⇒郷土博物館⇒学遊館⇒中村駅 ○しまんと・あしずり号 ・GW、夏休み、土日祝日等の91日間運行 （四万十市→土佐清水市→大月町→宿毛市→四万十市） ○予土県境地域連携実行委員会【再掲】 予土県境サイクルツーリズムの推進 ・サイクリングの魅力情報発信、サイクルトレイン事業 ・予土まちサイクルデジタルスタンプラリー（7月～） 予土県境地域ごとに、自然・観光・穴場スポット情報の設定	○四万十川バス運行 ・10月・11月及び3月の土・日・祝日と春休み（3/15～3/31の全期間）31日運行 ○市内循環バス（しまんとトロリーバス）の運行 ・10月・11月及び3月の土・日・祝日と春休み（3/15～3/31の全期間） 中村駅⇒宿泊施設⇒佐田沈下橋⇒郷土博物館⇒学遊館⇒中村駅 ○しまんと・あしずり号 ・10月・11月及び3月の土・日・祝日と春休み（3/15～3/31の全期間） ○予土県境地域連携実行委員会【再掲】 予土県境サイクルツーリズムの推進 ・サイクリングの魅力情報発信、サイクルトレイン事業 ・予土まちサイクルデジタルスタンプラリー（～12月下旬） 予土県境地域ごとに、自然・観光・穴場スポットの設定	四万十市（観光商工課） 幡多広域観光協議会 観光協会 幡多広域観光協議会	◆二次交通利用者数 H30:6,164人 H31:6,513人 → R6:10,000人 R2:3,135人 R3:2,374人 R4:3,372人 R5:4,715人	
【観光AP10】 (3) 周遊しやすい環境の整備							
○観光案内機能の充実			○四万十市観光協会の案内機能の充実 ・雑誌・新聞・TV等への情報提供、SNSでの発信強化 ・観光案内用タブレット（R3導入）の活用促進	○四万十市観光協会の案内機能の充実	四万十市（観光商工課・関係課）	◆外国人観光入込客数 H30:3,287人 → R6:5,000人	◆周遊しやすい環境づくりが進み観光誘客につながっている

分野			上半期の取り組み状況 〈数量的に見える形で具体的に記載〉	下半期の取り組み予定 〈内容を具体的に記載〉	主な事業主体	定量的な目標 到達点（R6） 実績（直近）	備考 （定性的な目標、課題など）
戦略の柱							
施策							
アクションプラン 主な内容							
観光分野							
		〇一元的な情報発信の促進 《連携AP 8、連携AP 9、連携AP11》	・外国人観光客向けポケット（R4 導入）の活用促進 〇観光客誘致宣伝活動 〇森林経営管理制度の運営 ・四万十市観光ガイドブック等作成、送付など ・観光案内マップの多言語化（最新情報に更新）	〇観光客誘致宣伝活動 ★四万十市観光パンフレットリニューアル業務 事業の継続	観光協会 幡多広域観光協議会	R2：461人 R3：186人 R4：357人 R5：2,595人	
2. おもてなしサービスの充実							
		【観光AP11】 (1) 観光地としての市民意識の醸成と浸透					
		〇市民の参画意識の醸成	〇地域おこし企業人交流プログラム(ANA総合研究所から1名招致) ・R5にて活動終了 〇小中学校・高等学校との連携 ・職場体験の受入等（1回） ・総合学習での講義棟（1回） 〇小京都ゆかたDAY（7月5日:15団体・店舗、104人参加） 〇トンボ公園整備ボランティア ・花菖蒲整備（5月ー雨天中止）	〇あったか高知秋のおもてなし一斉清掃の実施 〇入田ヤナギ林の整備【再掲】 ・一斉清掃（11月）、花まつり会場清掃、草刈り、遊歩道整備（2月） 〇小中学校・高等学校との連携 ・職場体験の受入等　・総合学習での講義等 ・ボランティア活動の推進 〇トンボ公園整備ボランティア ・スイレン根抜き、草刈り作業（2月）	四万十市（観光商工課） 観光協会		◆観光地であることを広く市民が認識し、おもてなし意識と地域の魅力を伝えられる市民が増えている
		【観光AP12】 (2) リピーター確保に向けた取り組み （特典の充実）					
		〇おもてなし感が感じられる仕組みづくり	〇地域活性化起業人（地域おこし企業人交流プログラム）【再掲】 ・R5にて活動終了 〇ONSEN・ガストロノミーウォーキング企画 ・観光振興連絡会議及び関係団体と連絡会の開催（6回） 〇情報発信（Instagram投稿他） ・紫陽花、花火大会等　計3回投稿 〇バリアフリー観光セミナー（6月） ・講師による障害がある方への接し方、誘導方法を学ぶセミナー（14団体、22名）	〇ONSEN・ガストロノミーウォーキング企画及び実施 ・観光振興連絡会議の開催 3月　ONSEN・ガストロノミーウォーキング実施 〇情報発信（Instagram投稿他） ・随時発信	四万十市（観光商工課） 観光協会 四万十市観光振興連絡会議 西土佐観光推進協議会		◆商工業分野等との連携による多様な仕組み、サービスが生まれている
4 組織力の強化と観光リーダーの発掘・育成							
		1. 観光関連事業者のスキルアップ					
		【観光AP13】 (1) 観光関連組織の役割分担と組織力の強化					
		〇役割分担の明確化とスキル・組織力の強化 〇コーディネーターの育成	〇四万十・足摺エリア版DMOによる広域観光推進連携事業【再掲】 （実施主体：幡多広域観光協議会） ・商談会（6回　67社） ・モニターツアーアテンド（一般旅行1回、教育旅行1回） ・団体旅行受入（11団体） ・教育旅行セールス（関西　14社） ・教育旅行受入（5校） ・教育旅行下見（1校） ・教育旅行商談会（1回　9社） ・インバウンド関連　教育旅行学校説明会（台湾　1回49校） ・インバウンド関連　団体旅行商談会（台湾　1回9社） ・観光PRキャラバン（2回） ・ツーリズムEXPOジャパン（東京）	〇四万十・足摺エリア版DMOによる広域観光推進連携事業【再掲】 （実施主体：幡多広域観光協議会） ・商談会 ・教育旅行受入 ・ツーリズムEXPOジャパン2024 ・フィッシングショー-OSAKA2024	四万十市（観光商工課） 観光協会 幡多広域観光協議会		◆観光人材・組織のスキル（商品企画、営業力等）が向上し、観光誘客の拡大につながっている ◆観光協会の案内機能 R6：強化

分野				上半期の取り組み状況 〈数量的に見える形で具体的に記載〉	下半期の取り組み予定 〈内容を具体的に記載〉	主な事業主体	定量的な目標 到達点（R6） 実績（直近）	備考 （定性的な目標、課題など）
戦略の柱								
施策								
アクションプラン								
主な内容								
観光分野								
				・GSTCトレーニング受講 ・宿泊アンケート調査 ・体験アンケート調査				
【観光AP14】 (2)異業種との交流・連携の促進				主な内容 ○異業種連携の強化⇒ 連携AP 7				
2. 観光人材の育成、確保								
【観光AP15】 (1)地域の観光リーダーの育成								
		○地域のキーマンの発掘、育成	○四万十市体験型観光受入研究会 ・田舎暮らし体験受け入れ 5月 常翔啓光学園中学校 32人 6月 開成高等学校 55人 ・令和6年度四万十市体験型観光受入研究会総会開催（5月） ・受入家庭数(令和6年8月)：35軒 ※令和5年度末：31軒	○四万十市体験型観光受入研究会 ・研修会	四万十市（観光商工課・関係課） 観光協会 幡多広域観光協議会 四万十市体験型観光受入研究会	◆教育旅行受入家庭数 H29:49軒 → R6:65軒 R2:52軒 R3:52軒 R4:13軒 R5:31軒	◆地域で核となる観光人材が育成されている	
【観光AP16】 (2)将来の担い手の発掘・育成								
		○インストラクター、ガイドの育成 ★接遇・コミュニケーション能力の向上 ○ボランティア等の受け入れ	○四万十市体験型観光受入研究会【再掲】 ・田舎暮らし体験受け入れ 5月 常翔啓光学園中学校 32人 6月 開成高等学校 55人 ・令和6年度四万十市体験型観光受入研究会総会開催（5月） ・受入家庭数(令和6年8月)：35軒 ※令和5年度末：31軒 ○バリアフリー観光セミナー（6月） ・講師による障害がある方への接し方、誘導方法を学ぶセミナー（14団体、22名） ○観光ガイドミーティング（2回） ・LOILOIしまんとミーティング（4月、6月） ○トンボ公園整備ボランティア ・花菖蒲整備（5月～雨天中止）	○四万十市体験型観光受入研究会【再掲】 ・研修会 ○観光ガイドミーティング ・LOILOIしまんとミーティング ○トンボ公園整備ボランティア ・スイレン根抜き、草刈り作業（2月）	四万十市（観光商工課） 観光協会 幡多広域観光協議会 四万十市体験型観光受入研究会		◆観光人材の育成、レベルアップが図られている ◆観光の担い手確保につながっている	